



inochi



inochi WAKAZO Project

inochi WAKAZO Forum 2022
— 情熱で、いのちを輝かそう。 —

一般社団法人inochi未来プロジェクトとは？

みんなでinochiの大切さと未来について考え、行動するプロジェクト。医療者、企業、行政そして市民と患者も。関西・日本が、みんなで支え合いながら、健康で長生きできる街・国になることを目指します。



一般社団法人inochi未来プロジェクト
理事長 / 大阪大学 名誉教授 / 大阪警察
病院 院長

澤 芳樹

いのち輝く未来社会の実現を、皆さまとともに。

一人でも多くの心臓病に苦しむ患者さんのいのちを救うために、日々医療の現場でいのちと向き合い、格闘している医療者の立場から、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」について、フォーラムを開催させていただきます。新型コロナウイルスと闘い、共生し、予測できない不確実な未来に向かって生きていくためには、いのちを救い、力を与え、つなぐ活動と、経済社会活動が両立・循環する、新しい社会共有価値をみんなで考え、創り出すことが必要だと考えます。今回のご提案に少しでも興味を持っていただけた暁には、ぜひ、いのち輝く未来社会を実現するために、ご理解と支援のほどよろしくお願い申し上げます。

理事のご紹介



東京医科歯科大学
発生発達病態学分野 教授
森尾 友宏



慶應義塾大学医学部
整形外科教室 教授
中村 雅也



順天堂大学医学部
形成外科学講座 主任教授
田中 里佳



東京大学 教授
慶應義塾大学 教授
鈴木 寛



京都大学大学院医学
研究科 臨床神経学 教授
高橋 良輔



慶應義塾大学医学部
教授
宮田 裕章



大阪大学経済学研究科
教授
松村 真宏



Stanford University
池野 文昭



大阪大学医学部医学科卒
医師
寺本 将行

はじめに

- 03 — 一般社団法人inochi未来プロジェクトとは
- 04 — inochi WAKAZO Projectとは
- 05 — これまでの歩み
- 06 — inochi WAKAZO Forum 2022プログラム
- 09 — 協賛・後援のご紹介
- 10 — メンバー紹介

inochi Gakusei Innovators' Program 2022

- 18 — inochi Gakusei Innovators' Program とは
- 24 — inochi Gakusei Innovators' Program KANSAI
- 30 — inochi Gakusei Innovators' Program KANTO
- 36 — inochi Gakusei Innovators' Program HOKURIKU
- 42 — inochi Gakusei Innovators' Program KYUSHU
- 48 — inochi Gakusei Innovators' Program SHIKOKU
- 54 — ファミハグ

WAKAZO

- 56 — WAKAZOとは
- 60 — 今年度の活動

その他のプロジェクト

- 64 — JAIM
- 66 — 淡路島

協賛企業広告



inochi WAKAZO Project とは

「若者の力でいのちを守る社会を創る」をミッションに医療系の学生を中心とした約150名の学生が活動する、次世代イノベーター集団です。2つのメインプロジェクトである、ヘルスケア課題の課題の解決を中高生と行う「課題解決型」の inochi Gakusei Innovators' Program(i-GIP)、未来について考え、そのあり方を万博でデザインする「未来提案型」WAKAZO 両方の活動を行うことで、ミッションの実現を目指しています。

2022年度 inochi WAKAZO Project 全体代表



北野 圭一郎

京都府立医科大学
医学部医学科
2年

「若者からいのちを守る社会を創る」をミッションとする inochi WAKAZO Project は、次世代イノベーターが集まり、いのちについて考え行動し続けてきた団体です。

未知のウイルスが世間を、常識を一変させてから早3年、少し息苦しい社会が私たちの当たり前になりつつあります。そんな出口が見えない時間・空間の中でも諦めずいのちの輝きを追い求めた先に、私たちが私たらしめる何か眠っています。inochi WAKAZO Forum 2022 では、熱意にあふれる次世代イノベーターが起こしてきたアクションを等身大で表現し、万博に向けたアクションの宣誓を通して、2025年やその先に向けたこれからの新たな未来社会を描きます。若者のいのちを守りたい強い思いが、情熱が、この場で発散し、みなさん一人ひとりに伝播します。私たちの思い描く「いのち輝く未来」が、みなさんの一つの問いになりますように。

2022 CORE MEMBERS



KANTO代表
島 碧斗
東京大学
教養学部文科一類
2年



HOKURIKU代表
定免 泰誠
金沢大学
融合学域先端学類
2年



KYUSHU代表
水谷 愛
九州大学
医学部医学科
4年



SHIKOKU代表
五嶋 大輝
徳島大学
医学部医学科
4年



WAKAZO代表
飯塚 遼馬
立命館大学
政策科学部
1年



沓水 里穂
東京医科歯科大学
医学部医学科
4年



松井 瞳
東京医科歯科大学
歯学部歯学科
2年



高濱 雅
大阪医科薬科大学
医学部医学科
3年



下浦 優希
大阪大学
医学部医学科
2年



武本 あかね
京都大学
薬学部
2年

これまでの歩み・今年度の事業一覧



- 寺本将行(当時大阪大学医学部4年)らにより inochi 学生プロジェクト創設
 - inochi 学生フォーラムに6カ国の海外大の学生が参加
- 2015



- 「2025大阪万博誘致若者100の提言書」を大阪府に提出
 - inochi 学生フォーラムに6カ国の海外大の学生が参加
- 2016



- 若者の力で大阪万博誘致の実現を目指す「WAKAZO」本格始動
 - BIE総会にて日本代表の1人として招致プレゼン
- 2017



- inochi 学生フォーラム優勝チームのアイデアが社会に出てプロジェクトに
 - BIE総会にて日本代表の1人として招致プレゼン
- 2018



- 万博に関する有識者委員として大阪府のワーキンググループに参加
 - inochi 学生フォーラム 初の関東開催
- 2019



- inochi 学生プロジェクトを inochi WAKAZO Project に改名
 - inochi 学生フォーラムを inochi Gakusei Innovators' Program に改名
 - inochi Gakusei Innovators' Program 初の金沢開催
 - オンライン「inochi 未来・WAKAZO適塾」開始
- 2020

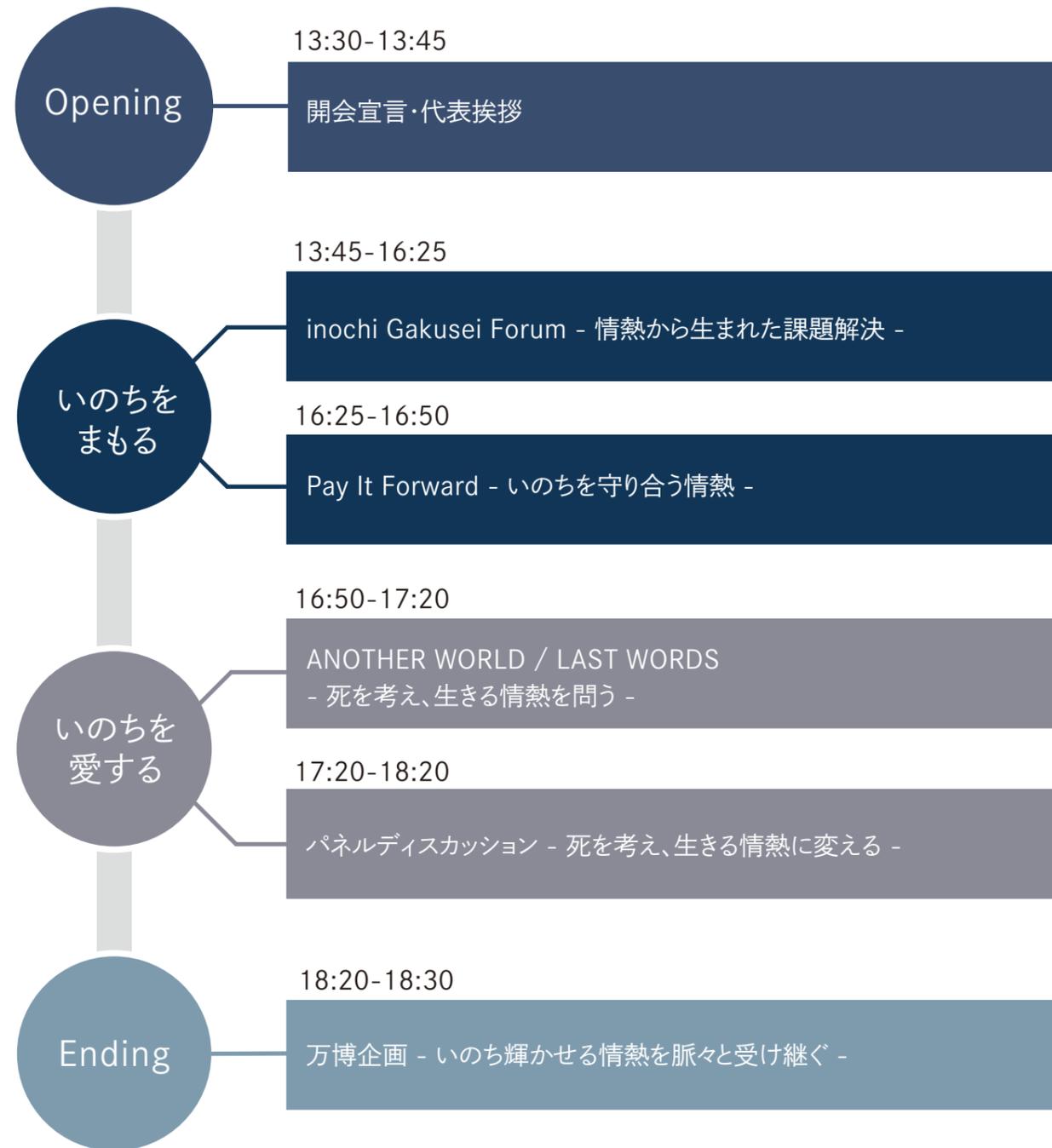


- inochi Gakusei Innovators' Program 初の徳島開催
 - inochi Gakusei Innovators' Program 初の海外開催
(ロサンゼルス、マレーシア)
 - inochi のペイフワード 実証実験を実施
- 2021



- inochi Gakusei Innovators' Program 初の九州開催
 - inochi Gakusei Innovators' Program TOKUSHIMA をSHIKOKU に改名
 - inochi Gakusei Innovators' Program KANAZAWA をHOKURIKU に改名
 - inochi のペイフワードがPM Award 2022 ファイナリストに選出
- 2022

inochi WAKAZO Forum 2022 プログラム



司会進行
國生 千代

Opening

inochi WAKAZO Projectの今年の活動の集大成である「inochi WAKAZO Forum2022」。開会の宣言をするとともに、1年間の活動に込めた代表の想いをお伝えいたします。「若者の力でいのちを守る社会を創る」を活動理念に、私たち若者の挑戦がここから始まります。

第1部 いのちをまもる

1部-1 inochi Gakusei Forum ～情熱から生まれた課題解決～

inochi Gakusei Innovators' Programは、関西・関東に加え、本年度から九州に進出し、金沢は北陸に、徳島は四国に地域を拡大しました。「心不全パンデミック」に取り組んだ関西・関東・北陸・及び九州での選考を勝ち抜いた中高生チームの中でコンペティションを行い、グランプリを決めます。加えて、四国・淡路島・ロサンゼルスといったグローバルなそれぞれの地域での活動成果発表もご紹介します。8年前に関西から始まったi-GIPがついに全国展開し、ウチから世界へ、さまざまな地域でそれぞれの課題に対して抱えている情熱を受け取ってください。

<心不全パンデミックのコンペティション 登壇チーム>



<心不全パンデミックのコンペティション 審査員の方々>

				
Stanford University	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻/寄附講座准教授	東京大学教授/慶應義塾大学教授	株式会社メトセラ/代表取締役 (co-founder and co-CEO)	葛西医院 院長/ KISA2隊大阪 隊長
池野文昭	八木雅和	鈴木寛	岩宮貴紘	小林正宜

<腰痛のエキシビジョン 登壇チーム>



<腰痛のエキシビジョン コメンテーター>



大阪大学整形外科講師
武中章太

1部-2 Pay It Forward ～いのちを守り合う情熱～

WAKAZOからは大学生からの課題解決として、「inochiのペイフォワード」を通じた「いのちを守り合う情熱」をプレゼンします。WAKAZOが構想する「inochiのペイフォワード」は、「誰かのいのちを守りたい」という思いから、自分のヘルスケアデータを提供するデザインです。これにより研究や開発が進むことで、今守ることのできていない「いのち」を市民で守り合うことを目指します。私たちはこのデザインによって、誰かのいのちを守るのと同時に、解析により提供者もさらに健康になれる、そんな「市民でいのちを守り合う」社会、そして「いのち輝く未来社会」を万博にて実現したいと考えております。

第2部 いのちを愛する

第二部では、インタビューや議論を通し、理想の最期の言葉"LAST WORDS"を切り口に、いのちの持つ死と生の二面性に向き合い、生きる情熱に変えていきます。一人一人がいのちを愛することで、2025年大阪・関西万博のメインテーマである「いのち輝く未来」を創る期待感をお見せします。

2部-1 ANOTHER WORLD/ LAST WORDS ～死を考え、生きる情熱を問う～

輝くいのちの裏側には、消えゆくいのちがあり、ライフサイエンスやテクノロジーの発展は、「死」の定義を変えてしまうかもしれない。すべての生命に共通する「死」について、感じ、考え、議論し、理解を深めることで、「生きることとは何か?」を万博において問いかける場、「WAKAZO ANOTHER WORLD」についてのプレゼンを行います。また、理想の最期の言葉"LAST WORDS"や燃やし尽くしたい情熱について、国内外でいのちを守る活動をしてきた若者や医療従事者、「KISA2隊」のお2人にいのちのインタビューを行います。死と生、生きる情熱についての問いを実際に立て、考えるきっかけとします。

<Special Message>



一般社団法人Whole Universe
代表理事
塚田有那

2部-2 パネルディスカッション ～死を考え、生きる情熱に変える～

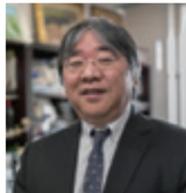
"LAST WORDS"や燃やし尽くしたい情熱についての問い立てを受け、登壇者の方々とinochiメンバーが熟議を交わします。「あなたの思い描く"LAST WORDS"は?」「あなたは"LAST WORDS"に向かってどのように生きていくか?」「若者が万博に向けてどのようにいのちの輝きを守っていくか?」の3つをキークエスションとして、実際に死や生に向き合う登壇者の方々の"LAST WORDS"や生に対する考えを伺います。さらに、若者の万博に向けた活動についても提案、討議します。

<ゲストの方々>



東京大学教授 / 慶應義塾大学教授

鈴木寛



大阪警察病院院長 / inochi未来プロジェクト理事

澤芳樹



日本博覧会協会 機運醸成局長

堺井啓公



バイオアーティスト / 研究者 / 開発者

福原志保



大阪大学医学系研究科 看護実践開発科学講座

山川みやえ



Ending

2025年大阪・関西万博まで、あと3年を切った今、このフォーラムを未来につなぐセレモニーを行います。ミyakミyakが見守る中、情熱でいのちを輝かせるこれまでのセッションを受け、若者がその情熱を脈々と受け継ぎながら、2025年大阪・関西万博とその先の未来に向けて歩み出す宣言をします。課題解決を通じていのちを守ること、データの提供に参加すること、そんな次の一歩から始まる未来を描きます。

協賛・後援の紹介

私たち学生の活動は、支援して下さる素敵な大人の皆さまからのご協力で成り立っています。この場を借りて御礼申し上げます。

Donation Partner



i-GIP Partner



Platinum Sponsor



Gold Sponsor



Silver Sponsor



Bronze Sponsors



Freiend Sponsors



後援一覧

経済産業省近畿経済産業局 / 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 / 公益社団法人関西経済連合会 / 一般社団法人関西経済同友会 / 大阪商工会議所 / 公益財団法人関西・大阪21世紀協会 / 公益財団法人 大阪観光局 / 大阪府 / 大阪市 / 一般社団法人日本バイオデザイン学会 / 一般社団法人 夢洲新産業・都市創造機構 / 一般社団法人 健康医療クロスイノベーションラボ / 大阪大学 大学院医学系研究科・医学部附属病院 産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ / 大阪公立大学 観光産業戦略研究所 / 金沢大学 融合研究域 / 日本貿易振興機構(ジェトロ)大阪本部 / 公益社団法人 東京都医師会 / 一般社団法人 大阪府医師会 / 一般社団法人 日本心不全学会 / 一般社団法人 日本循環器学会 / 一般社団法人 日本腰痛学会 / 公益財団法人 日本心臓財団 / 一般社団法人 日本心臓病学会 / 一般社団法人 日本循環器協会 / 一般社団法人 日本心不全学会 / 関西SDGsプラットフォーム大学分科会 / 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ / 文部科学省

メンバー紹介

本年度活動してきた運営大学生を紹介します。

●関西 ●関東 ●北陸 ●四国 ●九州 ●WAKAZO ●淡路島 ●USA

KANSAI/KANTO



関西代表

京都府立医科大学
医学部医学科
北野 幸一郎



関西副代表

大阪大学
医学部医学科
西川 采那



立命館大学
政策科学部
飯塚 遼馬



奈良医科大学
医学部医学科
井口 一步



京都大学
医学部人間健康学科
塚本 奈未



大阪大学
医学部医学科
宮北 優花



京都大学
法学部
中西 響生



島根大学
医学部医学科
仁島 夢萌



智辯学園和歌山
高等学校
上芝 彩季



大阪大学
医学部医学科
岡部 祥吾



京都橘大学
看護学部看護学科
岡山 碧海



京都大学
法学部
木村 龍雲



関東代表

東京大学
教養学部文科一類
島 碧斗



東京女子医科大学
医学部医学科
石原 昌子



東京医科歯科大学
医学部医学科
沓水 里穂



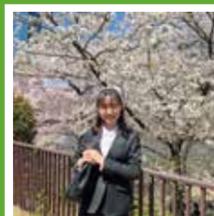
慶應義塾大学
商学部
後藤 ひなた



同志社大学理工学部
環境システム学科
古城 玲奈



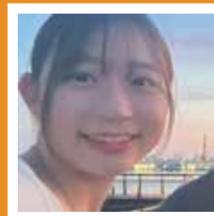
大阪大学
医学部医学科
佐伯 知彦



大阪大学
医学部医学科
笹倉 佳歩



大阪大学
医学部医学科
下浦 優希



東京医科歯科大学
歯学部
今野 由菜



立教大学
社会学部
塩田 実咲



東京医科歯科大学
医学部医学科
篠田 和



東北大学
医学部医学科
新田 友海



大阪大学
医学部医学科
杉村 涼



大阪大学
医学部医学科
鈴木 万理



京都大学
薬学部
武本 あかね



大阪医科薬科大学
医学部医学科
高濱 雅



慶應義塾大学
医学部医学科
原田 駿



慶應義塾大学
文学部倫理学専攻
宮本 美咲



東邦大学
医学部医学科
関 智嬋



東京大学
工学部
山下 彩夏

メンバー紹介

本年度活動してきた運営大学生を紹介します。

●関西 ●関東 ●北陸 ●四国 ●九州 ●WAKAZO ●淡路島 ●USA

KANTO/HOKURIKU/SHIKOKU/KYUSHU



慶應義塾大学
薬学部
今井 志保



千葉大学
工学部総合工学科
角谷 陽太



慶應義塾大学
総合政策学部
柳 蒼太



防衛医科大学校
医学教育部
米嶋 香保



昭和大学
医学部医学科
和田 功



慶應義塾大学
医学部医学科
渡辺 倅成



北陸代表

金沢大学
融合学域先導学類
定免 泰誠



北陸副代表

金沢大学
融合学域先導学類
中村 温雅



富山大学
都市デザイン学部
阿戸 佑理子



金沢医療センター付属
金沢看護専門学校
飴山 ねね



福井医療大学
保健医療学部
大野 こだま



金沢大学
融合学域先導学類
岡本 岳人



北陸大学
国際コミュニケーション学部
川上 真維



金沢大学
国際学類
桐山 朋子



金沢大学
医薬保健学域
戸館 晃介



石川県立看護大学
看護学部
中出 奈々



富山大学
医学部医学科
森田 佳凜



金沢大学
医薬保健学域
山地 夏鈴



四国代表

徳島大学
医学部医学科
五嶋 大暉



徳島大学
医学部医学科
大西 健斗



徳島大学
医学部医学科
竹原 優



徳島大学
医学部保健学科
東條 有里



徳島大学
医学部医学科
中井 洸我



徳島大学
医学部医学科
福田 翔一



徳島大学
医学部医学科
藤丸 良



九州代表

九州大学
医学部医学科
水谷 愛



九州副代表

九州大学
医学部医学科
安達 千紘



九州副代表

熊本大学
医学部医学科
井崎 愛音



久留米高専 専攻科
機械・電気システム工学専攻
吉田 堯史



九州大学
医学部医学科
松崎 広太



九州産業大学
商学部
甲斐 響大



佐賀大学
医学部医学科
中橋 高帆



長崎大学
医学部医学科
尾崎 文香

メンバー紹介

本年度活動してきた運営大学生を紹介します。

●関西 ●関東 ●北陸 ●四国 ●九州 ●WAKAZO ●淡路島 ●USA

KYUSHU/WAKAZO



熊本大学
医学部医学科
永野 七海



産業医科大学
医学部医学科
高畑 遥



産業医科大学
医学部医学科
問田 歩



産業医科大学
医学部医学科
岡本 健史



熊本大学
医学部医学科
高木 奏子



山口大学
医学部医学科
山下 実紗



WAKAZO代表

立命館大学
政策科学部
飯塚 遼馬



WAKAZO副代表

東京医科歯科大学
歯学部歯学科
松井 瞳



東京医科歯科大学
医学部医学科
麻生 怜子



智辯学園
和歌山高等学校
上芝 彩季



埼玉医科大学
保健医療学部
長田 優斗



久留米工業高等専門学校
材料システム工学科
川浪 聖奈



広尾学園
高等学校
川野 史帆里



東京医科歯科大学
医学部医学科
木島 優美



岡山大学
医学部医学科
北山 万由子



久留米大学
医学部医学科
重松 真菜



日本大学
医学部医学科
澁川 陽菜



慶應義塾大学
医学部医学科
清水 真凜



東京大学
健康総合科学科
杉本 達也



大阪医科薬科大学
医学部医学科
成 仁脩



神奈川県立保健福祉大学
保健福祉学部栄養学科
高岡 亜瑠



徳島大学
医学部医学科
中井 洸我



同志社大学
文化情報学部
中岡 仁南



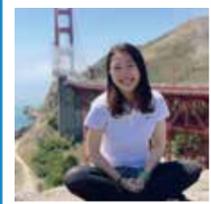
神戸大学
医学部保健学科
中本 好乃



東京大学
教養学部理科三類
日暮 詩乃



慶應義塾大学
医学部医学科
平本 京嗣



デブレツェン大学
医学部医学科
藤戸 美妃



東京大学
教養学部理科三類
前田 瑞季



大阪大学
医学部医学科
増田 奈保子



慶應義塾大学
総合政策学部
柳 蒼太



広尾学園
高等学校
山中 麻里江



慶應義塾大学
総合政策学部
山本 千聖



久留米高専 専攻科
機械・電気システム工学専攻
吉田 堯史



広尾学園
高等学校
李 尚遥

メンバー紹介

本年度活動してきた運営大学生を紹介します。

●関西 ●関東 ●北陸 ●四国 ●九州 ●WAKAZO ●淡路島 ●USA

淡路島/USA

淡路島代表



神戸大学
医学部医学科
鈴木 光穂



立命館大学
政策科学部
飯塚 遼馬



奈良県立医科大学
医学部医学科
井口 一步



神戸大学
医学部医学科
梶浦 凧紗



神戸大学
医学部保健学科
川上 さくら



京都府立医科大学
医学部医学科
北野 幸一郎



大阪大学
医学部医学科
西川 采那

USA代表



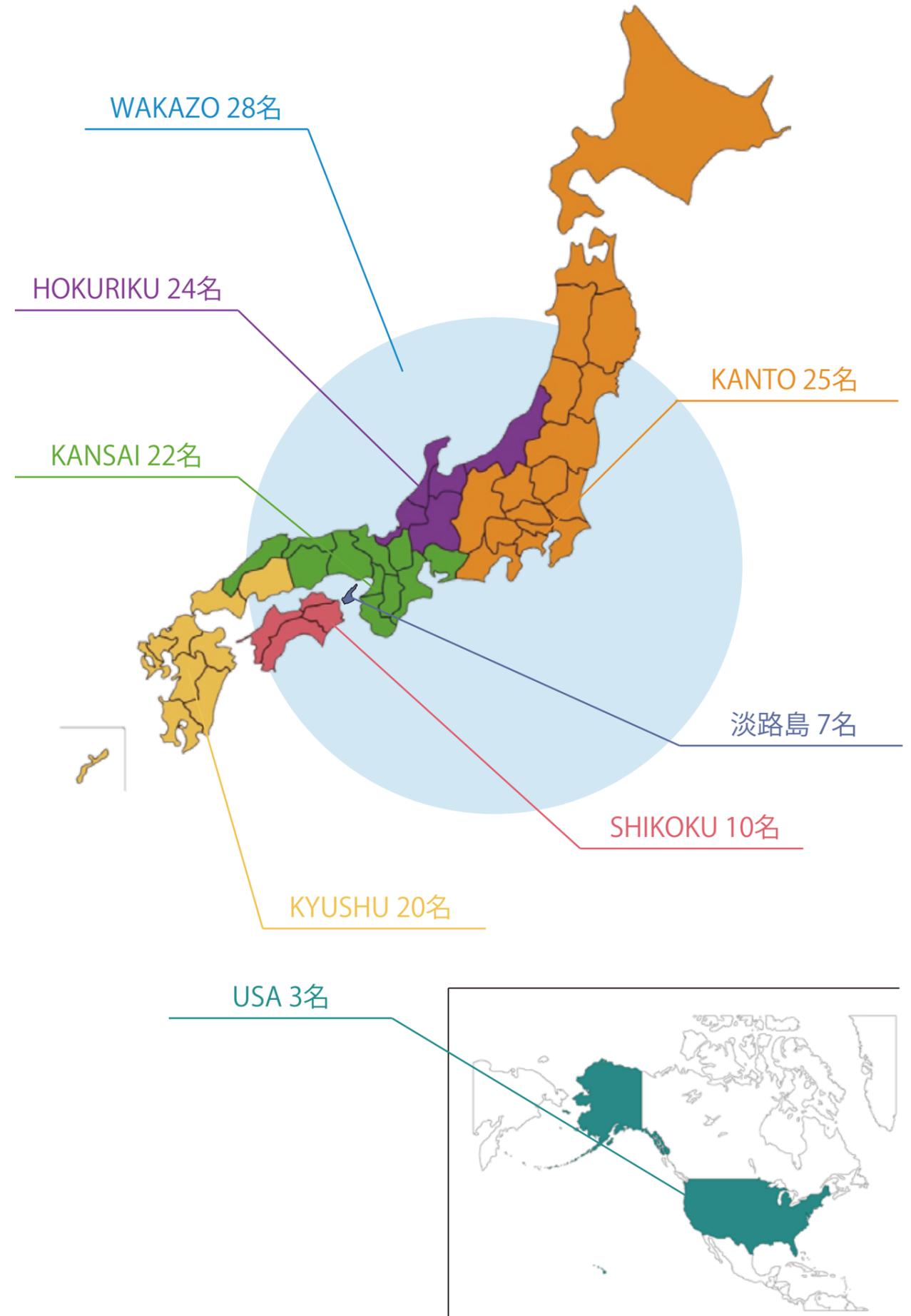
大阪大学
医学部医学科
田邊 翼



東京大学
医学部医学科
高橋 梨子



UCLA 4th year, Computational and Systems Biology
森 花音



inochi Gakusei Innovators' Program について

inochi Gakusei Innovators' Programについて

inochi Gakusei Innovators' Program (旧 inochi学生フォーラム / 略称 i-GIP) とは、inochi WAKAZO Projectが運営するヘルスケア課題解決策創出プログラムです。

本プログラムは、2015年より関西で毎年開催されており、2019年に関東、2020年に金沢(本年度より北陸)、2021年には徳島(本年度より四国)へと展開し、さらにはマレーシア、ロサンゼルス、と国内に留まらず海外にも進出しました。本年度は新たに九州にも活動の輪を広げ、全国的にi-GIPの活動を展開しました(下図参照)。これまでの7年間で日本含め世界7か国から総勢900名以上の修了生を輩出しています。2~4人から成る中高・高専生のチームが、数ヶ月間に渡り、各業界のトップランナーによる教育プログラムや医学生を中心とした大学生メンターによるメンタリングを受け、私たち一人ひとりが考えなくてはならないヘルスケア課題解決に取り組みます。参加者は課題解決のためのプランを自ら考え、実行し、「ヘルスケアアントレプレナー」としての第一歩を踏み出しています。修了生の一部は大学進学後に再びinochiに運営として戻り、自分たちの経験を後輩たちへと伝え、「ヘルスケアアントレプレナー」として自分自身も学びを得て更なる成長を遂げていきます。

<対象地域>

KANSAI: 緑色の府県
KANTO: オレンジ色の都道県
HOKURIKU: 紫色の県
SHIKOKU: ピンク色の県
KYUSHU: 黄色の県



本年度のテーマ

本年度のinochi Gakusei Innovators' Programで取り組んだテーマは、「心不全パンデミック」と「腰痛」です。関西・関東・北陸・九州では「心不全パンデミック」を、四国では「腰痛」に約4ヶ月間向き合ってきました。どちらもこれからのヘルスケア分野において重要な項目だと判断しました。次ページにテーマを選んだ理由の詳細を記載しております。

関西・関東・北陸・九州のテーマ

心不全パンデミックを前に、君はどうする？

現在、世界中で心不全患者が増加しています。

国内では、およそ100万人から150万人程度の患者がいると予測されています*1。さらに、全国の循環器科・心臓血管外科に心不全として入院した患者数は、2013年の約21.3万人*2から2020年には約26.6万人*3と約1.25倍になっています(図1)。加えて、心不全による死亡数では、2000年に4.6万人*4から2020年の8.4万人*5と、こちらも約2倍と大きく増加しています(図2)。この心不全の患者数の増加を「心不全パンデミック」と言います。この問題は日本に限ったものではなく、世界的にみても罹患患者数や入院者数の増加など多数の報告があります。我々、inochi WAKAZO Projectはこの問題を深刻なものとして捉え、今年度のテーマに選びました。(詳細はpp22-23に掲載)

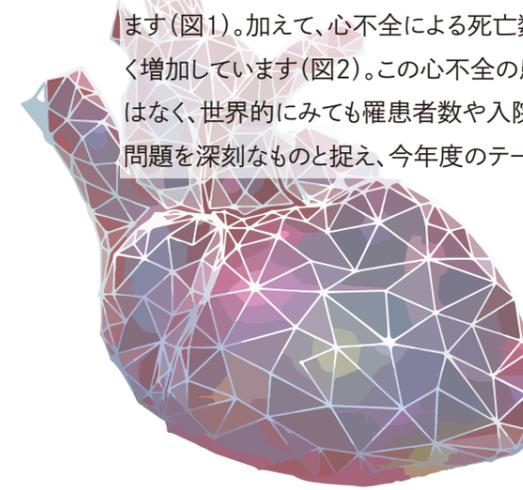


図1 心不全として入院した患者数

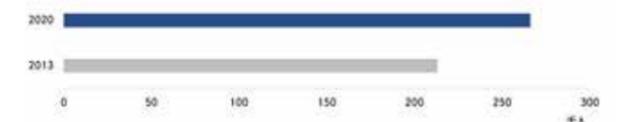


図2 心不全による死亡数



※両図とも、*2-*4をもとに作成

四国のテーマ

痛み和らぎ、腰に優しい日常を。

現在、日本人の4人に1人が腰痛を抱えながら生きていっているとされています*6。

その数はコロナウイルスの影響による生活の変化も加わって加速度的に増えているとも言われています*7。一度、腰痛を抱えると生活に支障が生じ、今まで通りの生活が行えなくなったり*8、常に健康面の不安に晒されたりすることとなります*9。

その結果、日々の生活や、本人のその後の人生、周囲の人間関係にまで多大な影響を与えます*9。腰痛について様々な取り組みが行われています*10。しかしながら、腰痛の問題が解決されるには十分とは言いきれず*11、社会全体で協力してアプローチしていくべき問題であると捉えています。そして、若者である私たち中高生、大学生がその中心にいて、腰痛について真剣に考える事で、腰痛の従来のイメージや古典観念を変えるきっかけになる事ができるのではないのでしょうか?腰痛分野がホットである四国、徳島*12から、地域と連携して全ての人が腰痛を気にせず、安心して暮らせる社会を目指します。

*1: Okura Y, et. al., Circ J 2008;72:489-491、厚生労働省. 2017年3月10日 第2回心血管疾患に係るワーキンググループ 議事録より

*2: 一般社団法人日本循環器学会 循環器疾患診療実態調査. 循環器疾患診療実態調査報告書(2016年度実施・公表). 2016年12月2日.

*3: 一般社団法人日本循環器学会 循環器疾患診療実態調査. 2021年度循環器疾患診療実態調査報告書. 2021年11月15日.

*4: 厚生労働省平成12年人口動態統計(確定数)の概況. 第5表 死因簡単分類別にみた性別死亡数・死亡率(人口10万人対)

*5: 厚生労働省令和2年(2020)人口動態統計(確定数)の概況. 第7表死因簡単分類別にみた性別死亡数・死亡率(人口10万人対)

*6: 厚生労働省2019国民生活基礎調査 によれば、日本の腰痛人口は、2800万人と試算されており、日本の人口(1億2614万6千人(国政調査2020年より))に対する割合は、約4人に1人となります。

*7: 例えば、白木大成、牧迫飛雄馬. 理学療法学, 論文ID 12259, [早期公開]

*8: 例えば、松平浩. 日本職業・災害医学会誌 JJOMT Vol. 63, No. 6, pp.329-336

*9: 例えば、有働 幸紘, 柴田 純平ら. 日本ペインクリニック学会誌, 2017, 24 巻, 1 号, p. 12-16,

*10: 例えば、腰痛これだけ体操など

*11: 例えば、2019内閣府 健康・医療戦略推進本部 資料DALYS

*12: 腰痛分野の研究のトップランナーである西良浩一が徳島大学にいらっしやるから

全地域合同教育プログラム

本年度は、i-GIPが全国に展開している強みを活かし、全3回にわたる全地域合同教育プログラムを行いました。関西・関東・北陸・四国・九州の5地域が一堂に会し、アイデアのブラッシュアップ、社会実装に向けたプロトタイプ作成やヘルスケアに関する知見を深めました。ご協力いただいた、非常に多くのゲストのみなさまに深く御礼申し上げます。

8/28 合同中間コンペ

概要

各分野のトップランナーである審査員、所属地域以外の地域のメンバーからフィードバックをもらうことに加え、地域を越えた中高生同士の交流を図りました。

審査員

山中 思温	WEIN Group CHRO (最高人材責任者) / 株式会社まーけっち 代表取締役CEO
絹川 真太郎	九州大学循環器内科准教授
音羽 勘一	富山県立中央病院循環器内科
岡島 正樹	金沢大学医薬保健研究域医学系救急・災害医学分野教授/金沢大学附属病院救急科科長
服部 悟治	奈良県立医科大学附属病院循環器内科医員
其道 忠久	inochi WAKAZO Project 推進委員会
増田 奈保子	大阪大学医学部医学科5年/inochi WAKAZO Project 2020代表
木島 優美	東京医科歯科大学医学部医学科4年/inochi WAKAZO Project 2021 共同代表
北野 幸一郎	inochi WAKAZO Project全体代表/i-GIP 2022 KANSAI代表
橋本 晃貴	i-GIP 2021 HOKURIKU代表
國富 太郎	i-GIP 2021 KANTO代表
大久保 孝慶	i-GIP 2021 KANTO副代表
福本 和生	徳島大学医学部医学科6年/i-GIP 2021 TOKUSHIMA代表
中井 洸我	i-GIP 2021 TOKUSHIMA共同代表/ファミハグ共同代表

特別講演

HPVワクチンについて正しく知り、自分で考え、接種するかどうかを判断できる社会を目指す学生団体Vcanと一緒に、自分の体に直結するヘルスケア課題について考えました。



9/11 Seeds Day

概要

テクノロジーを駆使して社会変革に取り組むイノベーターとのセッションを通じてテクノロジーに親しみを持ち、解決策の選択肢を広げました。

※Seedsとは……将来花開き実を結ぶ可能性のある科学技術研究の種のこと。

ゲスト

福田 匠	奈良先端科学技術大学院大学(NAIST) 修士2年/ NAIST 起業部 副代表
井原 輝人	奈良先端科学技術大学院大学 修士2年/ Code Party 代表
笹川 雄斗	奈良先端科学技術大学院大学
新谷 悠太	奈良先端科学技術大学院大学
前川 啓一郎	KOSEN Labo/ 豊橋技術科学大学博士課程1年
永幡 正憲	KOSEN Labo/ 一般企業社員 豊橋技術科学大学修士課程修了
笠原 真吾	米国医療機器・IVD工業会 常務理事
吉田 堯史	久留米工業高等専門学校 専攻科2年
久保山 徳聖	九州大学 工学部機械航空工学科4年
黒田 一石	一般企業 技術職/ 久留米工業高等専門学校機械工学科卒
一倉 弘毅	筑波大学 理工生命情報学術院 システム情報工学研究群 修士2年
山口 優輝	久留米工業高等専門学校 電気電子工学科5年
大津 友躍	久留米工業高等専門学校 専攻科1年
重富 竜ノ介	九州大学大学院 芸術工学府 メディアデザインコース1年
片山 歩希	奈良工業高等専門学校 情報工学科

共催団体

奈良先端科学技術大学院大学(NAIST) 起業部
学生団体 KOSEN Lab

 KOSEN Labo



9/25 WKC Forum

概要

WHO健康開発総合研究センター(WHO神戸センター:WKC)主催のもと、「Our planet, Our health - 私たちが考える地球規模の健康課題 -」と題し議論やセッションを行いました。

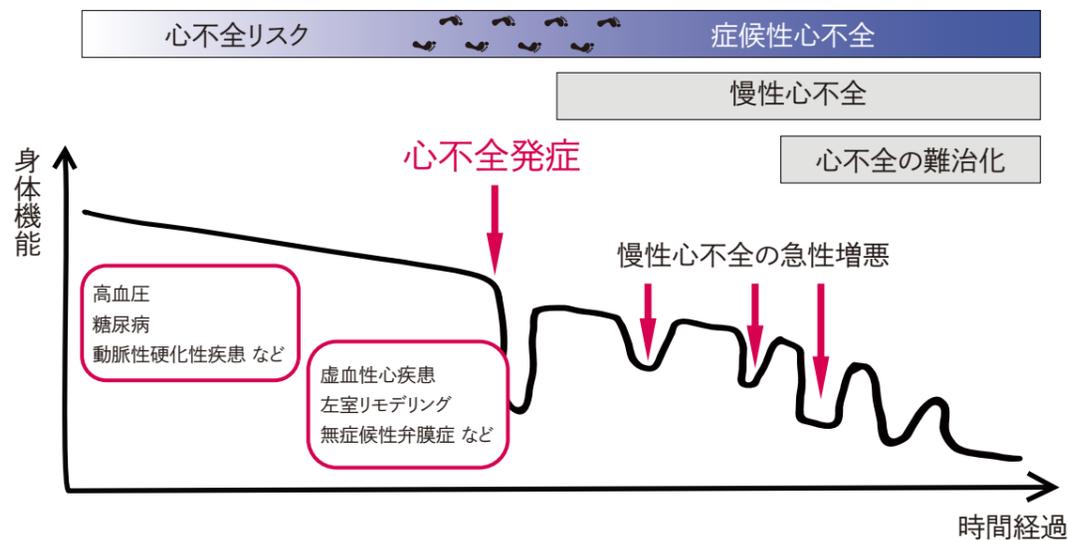
内容

- 開会の辞** ● 茅野 龍馬/ WHO神戸センター医官
サラ・ルイーズ・バーバー/ WHO神戸センター所長
- Keynote speech** ● テーマ: 「How to Initiate OUR Global Health - 世界と100年後の健康 -」
國井 修/ 公益社団法人グローバルヘルス 技術振興基金(GHIT Fund) CEO
- パネルディスカッション** ● テーマ: 「What is "well-being"? - 健康から見る持続可能性 -」
茅野 龍馬/ WHO神戸センター医官
ローゼンバーグ恵美/ WHO神戸センター技官
蟹江 信宏/ 国境なき医師団 小児科医
井口 一步/ 奈良県立医科大学 医学部医学科 学生
渡邊 菜々子/ 神戸市立葺合高等学校 学生
パナトーニ ユキ/ 神戸市立葺合高等学校 学生
- 分科会** ● テーマ: 「Act Individually, Change Globally - 地球市民としての健康課題 -」
12のテーマに対し、大学生によるプレゼンおよび議論を行いました。
- 閉会の辞** ● 山下 輝夫/ 兵庫県 保健医療部長

まるわかり心不全！

心不全とは？

心不全とは「心臓が悪いために息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気」*1、「なんらかの心臓機能障害、すなわち、心臓に器質的および/あるいは機能的異常が生じて心ポンプ機能の代償機転が破綻した結果、呼吸困難・倦怠感や浮腫が出現し、それに伴い運動耐容能が低下する臨床症候群」*1です。心不全によって全身に酸素を含んだ血液を十分に送れなくなると、動悸どろきや息切れ、疲労感、怠さなどが生じます。また、全身を巡った血液が心臓に戻りにくくなった場合にはむくみの症状を引き起こすこともあります。



※「急性・慢性心不全診療ガイドライン」をもとに作成

心不全の治療法～心不全ガイドライン*1より～

心不全の発症・進展は4つのステージ(A/B/C/D)に分類されます。大多数の心不全は慢性・進行性で、急性心不全として発症したのち慢性化すると、急性増悪を繰り返しながら徐々に重症化していきます。心不全の治療においては予防がとて重要で、各ステージの進行を抑制することが求められます。

- ステージA(リスクステージ)： 心不全の原因となる器質的心疾患の発症予防
- ステージB(器質的心疾患ステージ)： 器質的心疾患の進展抑制と心不全の発症予防
- ステージC(心不全ステージ)： 予後の改善と症状を軽減
- ステージD(治療抵抗性心不全ステージ)： 基本的にはステージCと同様(終末期心不全では症状の軽減)

具体的な治療内容としては、下記のことがあげられます。

- 食事および生活習慣の改善・原因の治療・薬剤(多数のクラス)
- ときに医療機器を用いる治療(例、植込み型除細動器、心臓再同期療法、機械的循環補助)・心移植・集学的ケア

*1: 日本循環器学会・日本心不全学会合同ガイドライン「急性・慢性心不全診療ガイドライン(2017年改訂版)」9-11,28頁

私たちにできること

国内では昨今、複数の新薬が承認され、日本循環器学会による心不全療養指導士制度の運用など、心不全に対応した様々な動きがあります。心不全の現状や治療法を踏まえ、若者から、そして私たちinochi WAKAZO Projectからできる介入は、以下の4点だと考えています。その詳細について、中高生が考案したアイデアとともにご紹介します。

心不全の早期発見と早期予防

自覚症状のない(少ない)患者の医療アクセスや疾患管理状況の改善を目指します。

心不全の初期症状は、息切れなど数値化できるものではありません。そのため、心不全の疑いがある症状があっても、患者は明確に病院へ行くタイミングがわからないという問題があります。これによって早期発見ができていないことに着目したのが、以下のアイデアです。

ショッピングモール内を歩行しているときの心拍数・呼吸数の変化から身体機能を評価し、診断の必要性の有無を伝えることによって、早期発見を可能にします。

心不全患者による身体状況の把握

心不全悪化の兆候に気づけるよう、患者の身体状況の継続的なモニタリングを目指します。

心不全患者はヒートショックになるリスクが高いにも関わらず、入浴の際に適正温度を無視していることが多いという現状があります。そこで、腕を置いている浴槽のふちで心拍数を測定し、適正時間を風呂内外のランプで可視化することを目指します。

このアイデアは既に簡単なプロトタイプングを終えており、アイデアの実現に向けて活動を広げています。

心不全患者による適切な運動の実施

患者の運動耐容能や予後を改善すべく、患者が適切な運動を実施できる状況を目指します。

心不全の急性悪化で入院した後に運動療法を一定期間医療機関で受け、医師から安定していると判断された患者は、心臓リハビリテーションを行うことがあります。しかし、心臓リハビリテーションを気軽に継続できる場はあまり多くありません。

そこで、駅に置かれているテレワークブース内で心臓リハビリを行うことのできるサービスを開発します。これによって、退院後も患者が適切な運動を生活の中で実施することが可能になります。

心不全患者による服薬状況の改善

再入院の主な要因の一つである急薬を防ぐべく、服薬アドヒアランスの向上を目指します。

今薬を飲むこと / 飲まないことで自分の体かどのように変化しているか、今どのような状態なのかをアバターで表現します。この利点の一つは「データを個人化できること」です。現在の医学研究は、集団同士の比較によって「全体としての結果」を示唆しますが、多くの人々が気になるのは、「飲んだ方が良かったと言われた目の前の薬を飲まなかったら、飲んだら“自分は”どうなるのか」だと思います。

アバター服薬アプリは、患者さん個々の時間軸と薬の血中濃度に着目し、自分の体の中が薬でどのように変わっているかをリアルタイムで直感的に分かるような未来を目指します。

inochi Gakusei Innovators' Program 2022 KANSAI

代表挨拶



inochi Gakusei Innovators' Program
2022 KANSAI 代表
京都府立医科大学医学部医学科2年
北野 幸一郎

皆さんは今自分がここにいられる理由、今こうやって私が書いた文章を読んでいる理由について考えたことはありますか？親が自分を産んでくれたから、運のおかげ、周りの人のおかげ、目標に向かって努力してきたからなど様々な答えがあると思いますし、あるべきだと思います。

私はこう考えます。私のお母さんにもやはりお母さんがいて、そこには私のお母さんを産み、私を産んで育てるまでにしてくれた環境がある。自分が今まで関わってきた、影響を受けてきた人たちにもそれぞれの環境はあって、そのお母さん、さらにそのお母さんにも、やはりそれぞれの環境がある。また、皆さんが今通っている学校にはそれを作った人たちがいて、皆さんが普段何気なく通っている駅にも、道にも、それを作った人たちがいる。

地球が誕生してから今までの時間の中で、脈々と受け継がれてきた命が、そしてそれぞれの命が創り上げてきた環境が、私たちが今のこの「環境」に存在させてくれている。だからこそ、私たちにはこの与えられた「環境」を最大限活かし、その恩を他の人の「環境」に返せるように社会に働きかけていく義務がある、そう考えています。皆さんには、自分が今この環境で出来る最大のことは何なのかについて常に考え続け、様々なことに挑戦して欲しいと思っています！

アドバイザーの先生



大阪大学大学院医学系研究科
循環器内科教授
坂田 泰史

参加校一覧

8年目に突入した「inochi Gakusei Innovators' Program KANSAI」。
今年度は以下に掲載する、関西圏の中学校・高等学校・高等専門学校から多くの学生が参加しました。(順不同)

灘高等学校	清風南海高等学校
神戸女学院中学校・高等学部	大谷高等学校
大阪星光学院高等学校	京都市西京高等学校
四天王寺高等学校	淳心学院高等学校
天王寺高等学校	関西大倉高等学校
大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎	京都府立洛北高等学校
奈良学園登美ヶ丘高校	鈴鹿工業高等専門学校
智辯学園和歌山高等学校	



教育プログラム

- オフライン教育プログラム
- オンライン教育プログラム

7/10 Kick Off Meeting

心不全パンデミックについて理解を深めた日。
i-GIP活動の第一歩。



澤 芳樹
inochi未来プロジェクト 理事長
大阪大学名誉教授
大阪警察病院院長



坂田 泰史
大阪大学大学院医学系研究科
循環器内科学教授



7/31 思いを課題に昇華させる日

ヒアリングを通して身につけた知識を用いて課題の決定。
ネクストアクションを考えた日。



松田 崇弥
株式会社ヘラルポニー
代表取締役



8/14 思いをさらけ出す日

修了生との対話を通して、i-GIPでの悩みを相談。
これからのi-GIP活動へのモチベーションを高めた日。

オフライン教育プログラムは
OSAKA INNOVATION HUB様と
共催で行いました



7/17 ヒアリングの心構えを知る日

ヒアリングのノウハウやスキルを学んだ日。



中井 洸我
徳島大学 医学部医学科4年
inochi WAKAZO Project
社会実装アドバイザー

7/24 インタビューをする日

心不全治療に関わる方々にヒアリング。
現状への理解を深めた日。



大森 崇史
福岡ハートネット病院
総合内科・循環器内科 医師



尾上 健児
奈良県立医科大学 医師



弓野 大
医療社団法人ゆみの 医師



斉藤 慶子
ゆみのハートクリニック
ソーシャルワーカー



富山 美由紀
のぞみハートクリニック
慢性心不全認定看護師

西川 淳一
帝京大学医学部附属病院
理学療法士
大阪警察病院 ハートチーム

持田 聖子
心不全療養指導士・看護師

小笠原 静香
看護師

深水 愛子
慢性心不全認定看護師

濱地 明衣
薬剤師

8/21 人への伝え方を学ぶ日

聞き手に伝わるプレゼンテーションについて学んだ日。



9/18 アイデアを磨き上げる日

解決策のアイデアのを見つけ方を教わる。
大学生と中高生と一緒に解決策を考え日。



小国 士郎
株式会社小国士郎事務所
代表取締役

10/16 思いと向き合う日

i-GIP参加当初の思いを振り返り、最終選考会へ
チーム一丸となって気持ちを高めた日。



11/6 inochi KANSAI Forum

<審査員>



坂田 泰史
大阪大学大学院医学系研究科
循環器内科学教授



其道 忠久
一般社団法人inochi未来プロジェクト
事務局
株式会社電通



清元 祐紀
独立研究法人国立国際医療研究センター
総合診療科 医師
一般社団法人inochi未来プロジェクト
推進委員



8/28 合同中間コンペ

審査員がいる中で、現時点の課題と解決策をプレゼン。
課題と解決策について本格的に評価していただいた日。

9/11 Seeds Day

解決策について技術的な観点から
メンタリングを受けた日。

9/25 WKC Forum

WHOとの共催。世界と健康について考えた日。



パネリスト
井口 一歩
奈良県立医科大学
医学部医学科3年

10/2 自分を知る日

他の人の価値観を知り、自分の価値観と向き合った日。



宮野 公樹
京都大学
融合教育研究推進センター
准教授



10/23 最終ピッチ

本番と同じ形式でプレゼン。
プレゼンにさらに磨きをかけた日。



大西 統也
滋賀医科大学 医学部医学科3年
NCD疫学研究センター
登録研究コース



田縁 正明
inochi学生プロジェクト
設立時メンバー



寺本 将行
ハーバード大学
公衆衛生大学院 学生



山田 達也
株式会社GramEye取締役
大阪大学医学部医学科 6年

中澤 遼
京都リサーチパーク
イノベーションデザイン部

inochi x together



神戸女学院高等学部
藤田さら、花咲恵、原田優来、高橋千帆美



今までほんつとにたくさん会議を重ねて頑張ってきました！
この5ヶ月間、メンターの木村さんをはじめ、数え切れない程の方々にお世話になってきました。
皆様に恩返しができるよう、何よりも心不全患者さんに寄り添えるよう、精一杯思いを伝えます！

inochi x together

課題:

- ・医師と患者のコミュニケーション不足
- ・服薬を継続的に行うことが当たり前とされ、褒められない

解決策:めでいクル

- ・薬の空袋や空きシートの回収ボックス

効果:

- ・医師から褒められ服薬のモチベーション↑
- ・服薬の不徹底による再入院↓



第2位

シンMt.Fuji



四天王寺高等学校 新井美咲、藤吉恭子、山田夏帆

課題	シン・Mt.FUJI 「減らソルト計画」
解決策	小学生に対する食育
効果	家庭内での塩分制限に対する意識向上
将来性	大阪府栄養士会との協力→授業の普及

第3位

べにしょうが



奈良学園登美ヶ丘高校 中村萌々、野村明生、前倉椋歩、山下美玲

〈べにしょうが 課題と解決策〉	
課題	中高年ワーキングプアの方が時間、お金ともに十分でないため医療機関を受診しない傾向にある
解決策	めじゃるプロジェクト ～血圧測定を条件とした減塩弁当の無料配布～

審査員賞

今年度は、審査員の先生方の特別賞を設けました。



坂田先生



其道様



清元様



inochi Gakusei Innovators' Program 2022 KANTO

代表挨拶



inochi Gakusei Innovators' Program 2022 KANTO 代表
東京大学文科一類2年

島 碧斗

はじめまして。i-GIP KANTO 代表の、島 碧斗と申します。東京大学文科一類に通う、文系の大学生です。僕は医学生ではありません。将来医者になることは、恐らくないと思います。それでも、人のいのちを救いたいと、心の底から思っています。医療者でない若者でも、いや、「医療者ではないからこそ」救えるいのちがあると、信じて活動しています。健康であることは、誰もが考えるべきことだと、僕は思っています。誰にとっても自分ごとで、医療者だけが考えていけばいいことではないんです。

僕がこう思うようになったのは、高校1年生だった2018年に、このi-GIPに参加したことでした。それまであまりにも社会のこと、医療のこと、健康のことを知らなかった僕は、生死を彷徨った経験のある人や遺族に接し、それまで遠いものだった死という事象が眼前に立ち現れてきて、愕然としたのを覚えています。同時に、若者でも人々の健康を守るアイデアを考え出し、実際に社会に実装できるんだ、人のいのちを救うことができるんだということも知りました。

「心不全」で苦しむ人を救うために、医者でなくてもできることは、たくさんあります。大学生と中高生が二人三脚で考えぬき、「市民が市民の健康を守る社会」を共に創っていきます！

アドバイザーの先生方・ご協力団体

教育プログラムや解決策の考案にあたり、以下の先生方、団体のみなさまにご協力いただきました。



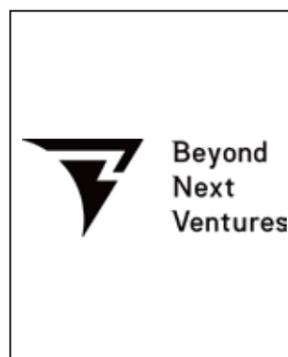
慶應義塾大学医学部
外科学(心臓血管)教室
教授

志水 秀行



東京大学医学部 心臓外科
教授 / 東京大学医学部附
属病院医工連携部部长

小野 稔



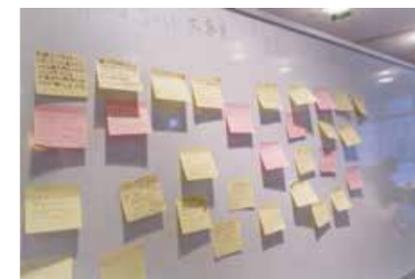
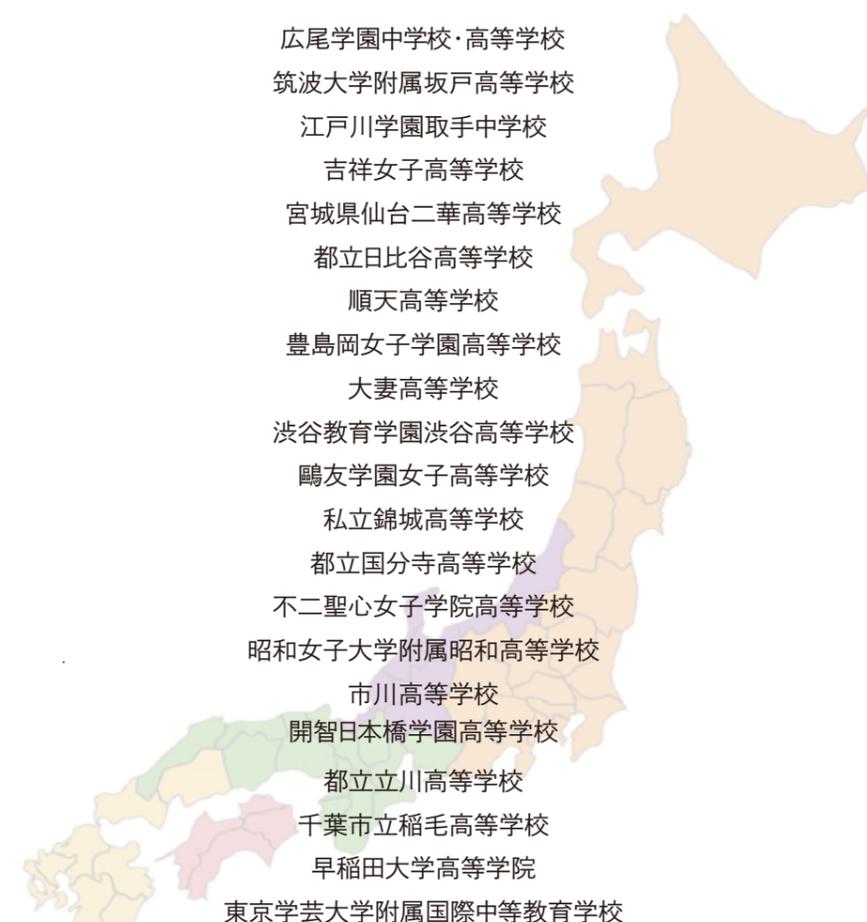
Beyond Next
Ventures



一般社団法人
ピーベック

参加校一覧 (順不同)

今年度は関東圏の以下の中学・高等学校・高等専門学校から、約60名が参加しました。



7/10

Kick Off Meeting

概要 Kick Off Meeting ～やるぞ!と燃える日～

メンター発表・中高生と大学生メンバーの交流会・講演会を行い、11月のフォーラムまで5ヶ月間熱い気持ちを持って走り抜ける決意を新たにしました。

ゲスト

辻田寛明
ワオフル株式会社 代表取締役社長
株式会社ポードレス・ジャパン メンバー

今村桃子
株式会社 Inner Sustainability
Chief Privacy Officer・代表取締役



7/17

心不全デイ

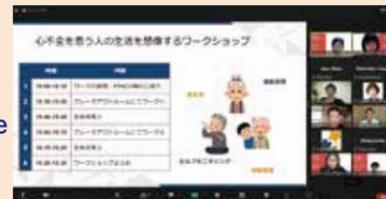
概要 心不全デイ ～テーマを理解し、自己と結び日～

小野稔先生の講演をはじめ、一般社団法人ピーベックwith Heartプロジェクトのメンバーの皆様とのワークショップも行いました。中高生が心不全パンデミックを自分事として捉える機会となりました。

ゲスト

小野稔
東京大学医学部心臓外科教授
東京大学医学部附属病院医工連携部部長

一般社団法人ピーベック (Power to the People with Chronic Conditions)
みんなでつろう、これからの医療 with Heart
プロジェクト メンバー



7/31

Pitch Day 1

概要 Pitch Day 1 ～課題点を見つめ直す日～

各チーム3分で心不全パンデミックに関連する課題、解決策をプレゼンし審査員の方からフィードバックをいただきました。今回のPitch Dayを通して、審査員の方からのフィードバックで自分達のチーム方向性について確認し、最終的な目標もより明確なものになりました。

ゲスト

矢藤慶悟
Beyond Next Ventures株式会社アソシエイト
東京理科大学先進工学研究科博士課程修了 工学博士

國富太郎
inochi Gakusei Innovators Program KANTO 2021代表
inochi GIP in Malaysia代表



8/11

プロトタイプングデイ

概要 プロトタイプングデイ ～実装へのきっかけをつかむ日～

アイデアを世に出していく段階での面白さ、苦悩などについてお話していただき、アイデアを想像でとどめておくのではなく、実際に行動へと移すことで見えてくる新しい発見の大切さを知る日となりました。

ゲスト

山田達也
株式会社GramEye取締役
大阪大学医学部医学科6年

中井洸我
徳島大学医学部医学科4年
inochi Gakusei Innovators' Program SHIKOKU 社会実装アドバイザー
WAKAZO メンバー



8/21

プレゼンデイ

概要

プレゼンデイ～想いを正確に伝える日～

岡本純子様にご講演いただき、有志3チームのプレゼンにアドバイスをいただきました。自分たちの想いを伝える話し方のエッセンスを学びました。

ゲスト

岡本純子
コミュニケーション戦略研究家
エグゼクティブ・スピーチコーチ
株式会社グローコム代表取締役社長



10/9

Pitch Day 2

概要

Pitch Day 2 ～KANTO Forumへ羽ばたく日～

実際の医療現場で活躍されている医師の先生方を審査員として呼びし、各チーム6分で心不全パンデミックに関連する課題、解決策をプレゼンしました。i-GIP KANTO Forumへ向けに解決策にさらなる磨きをかけるための貴重なご意見をいただきました。

ゲスト

大西勝也 大西内科ハートクリニック院長
瀬在明 日本大学医学部 外科学系心臓血管外科学分野准教授
寺本将行 医師/inochi未来プロジェクト理事
土肥薫 三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学教授
三重大学医学部附属病院副院長
宮本貴庸 みたか循環器内科院長
弓倉整 弓倉医院院長



10/16

先端技術見学

概要

先端技術見学

医療分野の先端技術に触れるべく、生駒研究室（東京工業大学）、岩崎清隆研究室（早稲田大学）、川嶋・宮崎研究室（東京大学）へ伺いました。見学型の教育プログラムで好奇心が刺激されるとともに、中高生は将来へ向けて視野を広げる機会となりました。

ゲスト

生駒研究室



岩崎清隆研究室



川嶋・宮崎研究室



10/30

i-GIP KANTO Forum 2022

概要

i-GIP KANTO Forum 2022

～心不全パンデミックを前に、未来社会の生に向き合う～

i-GIP KANTO 2022における4ヶ月間の活動の集大成として、「心不全パンデミック」をテーマに中高生20チームによるプレゼンテーションを行いました。また、東京大学 教授 石井剛先生により「心とこころ、あるいは人間になること」をテーマに基調講演をいただきました。「医療者ではなくても誰かのいのちを救いたい」という想いで活動してきた中高生と大学生の7月からの軌跡が集約された1日でした。

ゲスト

石井剛 東京大学大学院総合文化研究科教授
東京大学東アジア藝文書院副院長
宮本恵宏 国立循環器病研究センター
オープンイノベーションセンター長
網谷英介 東京大学大学院医学系研究科
重症心不全治療開発講座 特任准教授
吉澤美弥子 Coral Capital Senior Associate
高橋 遼平 経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課
医療・福祉機器産業室 総括係長



サモエドはもふもふ

中島虹洸、金子優利、宮田佳歩（昭和女子大学附属昭和高等学校）

zoomも3人で1つの画面に入るほど仲良しで、いつも明るい3人組。エネルギーで自発的かつ積極的なリサーチのもと生み出される心不全パンデミックへの解答をお楽しみに！



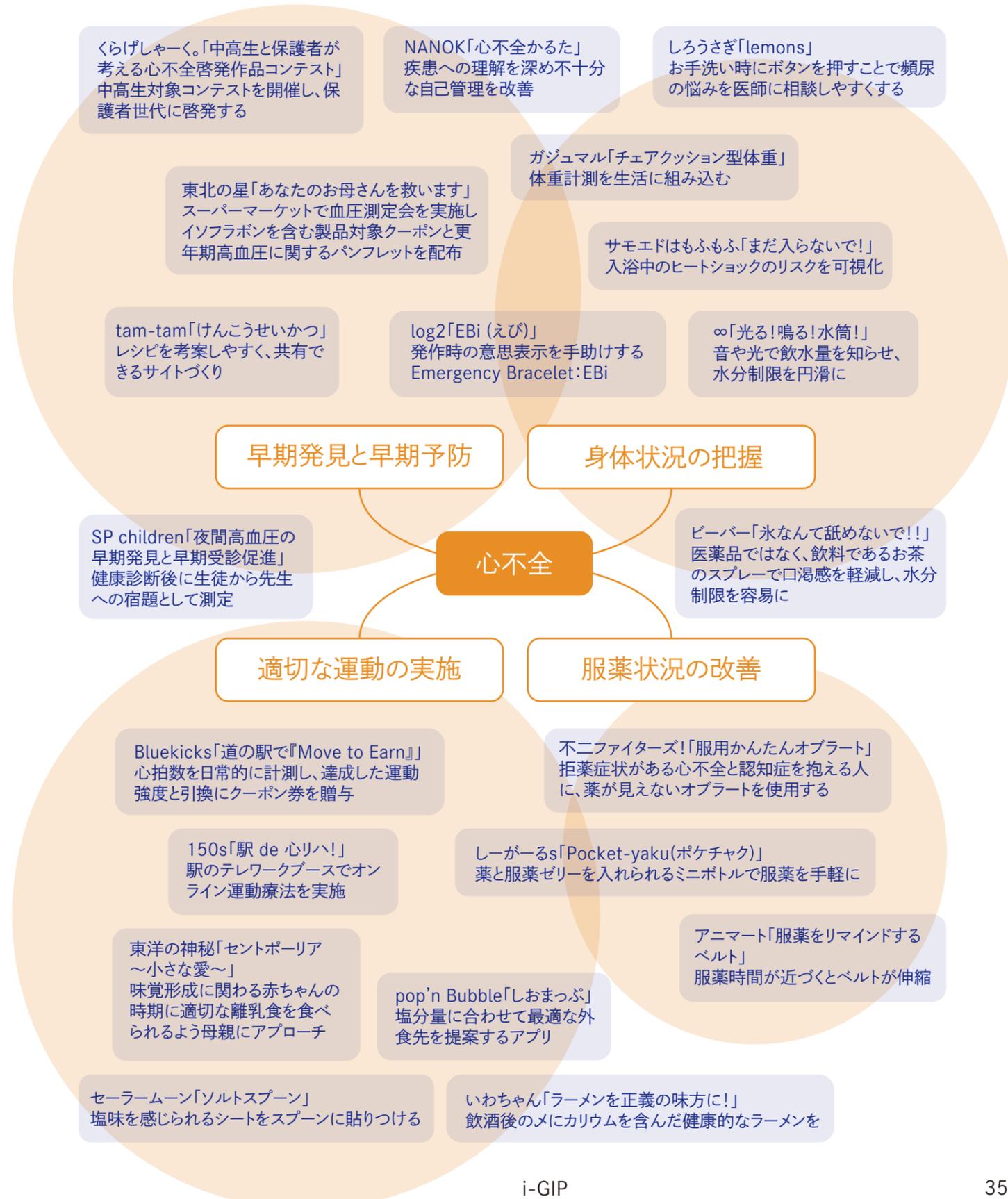
<アイデア概要>

プラン名	まだ入らないで！	プラン概要
チーム名	サモエドはもふもふ	ヒートショックの危険度が可視化できる信号
学校名	昭和女子大学附属昭和高等学校	○脱衣所・浴室温度 -脱衣所・浴室内の温度を計測し温度20℃以上の入浴にする
メンバー	中島虹洸・金子優利・宮田佳歩	○ダブルプロダクト -心拍数：浴槽のふちにセンサーを取り付けて計測する
作りたい未来or 教いたい人、その人の属性	「ヒートショックが引き金で急性心不全になる患者をへらす」 自宅で高齢者のみで暮らす方2390万人	-血圧：規則的に変動するため、平常時の血圧から計算する
課題	120名を対象に行ったアンケート結果から約80%の人は入浴推奨時間・推奨浴槽温度である41度以下5分以内から外れています。そこで、「心不全患者はヒートショックになるリスクが高い一方で、適正温度を無視している」ということを課題に掲げました。	○適切な入浴時間/温度 -人感センサーをお風呂場に取り付け、入浴経過時間を測定する
解決策	信号機を取り付け、ヒートショックのリスクを可視化する。 予算7770円(材料から概算,参考：秋月電子通商)+ケース代	-温度センサーで41℃以下に保つ
		○その他 -視覚障がい者の方も使用できるよう光だけでなく音も出るようにする



アイデアマップ

i-GIP KANTO 2022では、合計20チームが7月から4ヶ月間をかけて心不全パンデミックというテーマのもと、課題解決に取り組んできました。チームごとに設定した課題領域は様々で、解決策も非常にユニークなものがたくさん創出されました。ここでは、解決策を分類しながらご紹介します。



inochi Gaksuei Innovators' Program 2022 HOKURIKU

代表挨拶



inochi Gaksuei Innovators' Program
2022 HOKURIKU 代表
金沢大学融合学域先導学類2年

定免 泰誠

僕がこの活動に取り組む当初は、正直のところ「人の命を救おう」「若者の力で社会を変えてやるんだ」なんてことは考えておらず、できることは少ないだろうが、ただ後学のために参加しておりました。ところが、活動の中でたくさんの医療従事者や当事者、大人の方々の応援をいただき、何より意欲的な中高生が、斬新なアイデアで皆を唸らせているのを見て、何の専門知識もない僕たちだからこそ、誰もが考え付かなかった方法で社会を変えていけるのだと気がつきました。

今年度は、北陸から集まった30名のフレッシュな中高生と25名の大学生で活動してきました。今日このinochi WAKAZO Forumの舞台に立てた中高生も立てなかった中高生も、これからの日本を変えていく大切な人財として、大きなスタートを切る日を迎えられたことを嬉しく思うとともに、彼らのこれからのワクワクが止まりません。まだ「いのちを守る北陸」は続きます。ぜひお楽しみください。

アドバイザー



岡島 正樹

金沢大学医薬保健研究域医学系
救急・災害医療分野 教授
金沢大学附属病院救急科 科長



米田 隆

金沢大学大学院
医薬保健学総合研究科
未来型健康増進医学
金沢大学融合研究域
融合科学系 教授



音羽 勸一

富山県立中央病院
循環器内科 医師



田端 俊英

富山大学学術研究部
工学系 教授

参加校一覧

今年度i-GIP KANAZAWAからi-GIP HOKURIKUに名前を変え、地域を拡大し富山・福井を含んだ北陸3県から集まった中高生が課題解決アイデア創出に挑みました。(順不同)

金沢大学附属中学校
金沢大学附属高等学校
石川県立金沢泉丘高等学校
石川県立金沢西高等学校
石川県立小松高等学校

星稜高等学校
小松大谷高等学校
富山県立高岡高等学校
仁愛女子高等学校

i-GIP KANAZAWA は 2022年度より i-GIP HOKURIKU と名前を変え、より多くの地域の高校生とともに活動しています。



教育プログラム

7/10 Kickoff Meeting

プログラムのゴールや心不全の基礎知識の再確認、若者でも社会を変えることができることの理解の3つを目的に開催しました。前半は北陸代表の挨拶とアドバイザーの岡島先生の講演を行い、後半は若者が社会を変えた例のケーススタディをチームごとに行い、学んだことを発表しました。

▶ゲスト

岡島正樹：金沢大学附属病院 救急科 科長
米田隆：金沢大学融合研究域融合科学系 教授

7/17 デザインシンキング Day

イノベティブなアイデアを生み出すための思考フレームワークである、デザイン思考を事前レクチャーで学んだうえで、プロトタイプ作成までの5 Stepsを実践することでアイデア創出の基礎を学びました。

▶ゲスト

田端俊英：富山大学学術研究部工学系 教授



7/24 テーマ勉強会

心不全を多面的に理解し、より本質的な課題解決を行うために、心不全治療に様々な角度からかかわる、看護師、理学療法士、管理栄養士の方をお呼びし、ディスカッションを通してそれぞれの職業から見た心不全について理解を深めました。また、総合診療科の医師と共に人生会議を行い、患者さんと向き合うマインドセットを学びました。

▶ゲスト

河合皓太：富山大学 上市・地域医療支援学講座 客員准教授/かみいち総合病院内科医
大工真人：富山県立中央病院 慢性心不全認定看護師
関口幸美：富山県立中央病院 看護師
永松遥：富山県立中央病院 看護師
山岸由実：富山県立中央病院 管理栄養士
中島隆興：富山県立中央病院 理学療法士 心臓リハビリテーション指導士

8/14 プレゼンテーションDay

創出したアイデアや自分たちの想いを、プレゼンテーションを通して最大限伝えるための技法やマインドセットを学びました。

▶ゲスト

橋本晃貴：i-GIP 2021 KANAZAWA 代表

10/9

ピッチDay

医療、イノベーション、ビジネスの幅広い分野で活躍する研究者、起業家、営業マンなどにアイデアをピッチで伝え、ゲストの方それぞれの視点からアドバイスをいただきました。

繰り返しピッチをする過程で、アイデアがブラッシュアップされ、この日を機により本格的なプロトタイプングに進むなど、課題解決実現の大きな一歩となりました。

▶ゲスト

米田隆：金沢大学融合研究域融合科学系 教授
高沼理恵：金沢大学融合研究域融合科学系 助教授
工藤信明：金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任准教授
杉山正樹：合同会社InnovationDoor 代表
栢孝文：株式会社 Signal Talk 代表取締役
相馬正護：十全化学株式会社 常務取締役 経営企画・経理・情報システム担当
三宅昌司：石坂商事株式会社 営業第2部事業開発グループ課長
村田秀淑：特別養護老人ホームけんろく苑笠舞 主任生活相談員・介護支援専門員
棚橋信夫：花王グループカスタマーマーケティング株式会社 社会コミュニケーション部門中部地区部長

10/23

プレゼン練習Day

北陸inochi学生フォーラム前最後の教育プログラムとして、全チームが悔いなく発表を終える準備のために、各チームが自由にメンタリング、プレゼンテーションの練習を行いました。参加中高生同士の最後の活発な交流の場にもなりました。

11/6

北陸 inochi 学生フォーラム 2022 ～若者から変える未来の心不全～

inochi WAKAZO Forumへの登壇権をかけ、各チームが5か月間の集大成のアイデアを発表し競い合いました。基調講演を通して社会に心不全パンデミックの啓発を行うとともに、第3部の講演でアイデアを実現するためのネクストステップを中高生にメッセージとして届けました。

▶ゲスト

下島正也：金沢大学附属病院循環器内科 助教
米田隆：金沢大学融合研究域融合科学系 教授
音羽勘一：富山県立中央病院循環器内科 医師
杉山正樹：合同会社InnovationDoor 代表
工藤信明：金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任准教授
大砂雅子：金沢工業大学研究支援機構産学連携室 教授
福本和生：徳島大学医学部医学科
中井洸我：徳島大学医学部医学科



最優秀賞

ascend

金沢大学附属中学校



プラン名	健康へ、ご案内
チーム名	ascend
学校名	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校
メンバー	松尾奈夏、渡邊くら、大島あかり
設定課題	私達が目を着けたのは、ネットにいくらでも載ってる心不全チェックです。是非調べてみて下さい〜 心不全チェックの項目に具体的な指標がなく、項目があてはまっても病院に行くという意思につながらない。 つまり、今ある心不全チェックは意味が無い！！
課題の背景	現状、重症化してから病院に行く人が多い。早期発見は大切だが、パンデミックにより患者が増えると医師の診断が追いつかない。だからこそ、自分で心不全をチェックし、受診することが大切だが、判断基準が曖昧で正しくチェックできている人が少ないことより。
解決策	買い物しながら心不全チェック
解決策の詳細	心不全の具体的な指標として、六分間歩行を使用する。詳細は具体例にあるものだが、チェックには利用者歩いてもらわなければならない。そして、 買い物 とは、人が定期的に里を降り歩く、国家級に貴重な機会である。心不全を知らない人にも幅広く検査してもらうためにも買い物は絶好の機会だ。 以下は、具体的な検査方法である。 フロアマップで目的地を検索するとQRコードが表示され、道案内が開始する。そのついでに100mを早歩きしてもらい、時間を計測する。目標時間は1分、1分40秒以上かかった人には心不全の危険があることを通知する。100m以降は普通に道案内をする。100m未満の場合は100m以降と同様に通常通り道案内をする。 https://hakan.asanmail.com/foorguide/target/page_no=1
期待される効果	心不全の早期発見、早期治療 心不全の知名度アップ

2位



半なまトリオ

金沢大学附属高等学校×県立小松高等学校

プラン名	GMS
チーム名	半なまトリオ
学校名	県立小松高校 金沢大学付属高校
メンバー	橋本 森下勇志 吉岡真聖
設定課題	70~80代の一人暮らしの高齢者が、コロナで外出の機会が減り、会話が減少することでストレスがたまる
課題の背景	配偶者との死別や未婚で一人暮らしの高齢者はコロナによって社会との関わりが減り、コミュニケーションの場がなくなったことで寂しき、孤独からストレスがたまった結果心不全になる。
解決策	ゴミ捨て場を起点におすそわけによって人と人の交流を増やす。
解決策の詳細	1. ゴミ捨て場に用紙や筆記用具を設置する 2. 地域の人々がゴミ捨て場に行く 3. 用紙に自分がおすそ分けしたいものを書く、又は、欲しい物を探す 4. その人の家まで取りに行く 5. コミュニケーションの場が生まれる
期待される効果	コミュニケーション量が増えることによってストレスが軽減され、心不全の予防につながる。

3位



sunflower

星稜高校

プラン名	外出先にも薬を忘れない！『お薬チェックマン！』
チーム名	sunflower
学校名	星稜高校
メンバー	奥村美玖
設定課題	外出するときに薬を持ったかどうかを五感で判断することができないため、外出先で薬を飲むことができないこと。
課題の背景	薬管理ができないことが理由で再入院する心不全患者が多いこと。また、心不全患者である祖母が外出時に薬を飲み忘れることが多いこと。
解決策	お薬チェックマン！
解決策の詳細	五感を出た時に薬を持っていない場合に振動と音で利用者に知らせる。玄関側のセンサーと薬ケースの2点セット。玄関側のセンサーは赤外線センサーを搭載し、利用者が来たことを判断する。薬ケースは光センサーを搭載し、薬の包装フィルムの反射を利用して薬が入っているかを判断する。もし入っていない場合ケース自体が振動しながら音を出す。また、より薬を持っていくのを忘れないくするために外出時に必ず持っていくものと薬ケースを一体化させる。
期待される効果	外出先に薬があるという状態を作れるため、飲むべきタイミングで薬の服用ができる。家庭用目覚まし時計のように、振動や音があることで忘れにくいと効果が期待される。薬を服用していないことを医師に言えないストレスからの解放も期待できる。

inochi Gakusei Innovators' Program 2022 KYUSHU

代表挨拶



九州大学
医学部医学科4年

水谷 愛

まずはじめに、九州でのi-GIP初開催に当たり、本当に多くの方々に様々な形でご協力いただきましたことを、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

私が今、i-GIPを九州で立ち上げ、代表をしているのは、私自身がi-GIPに希望を感じたからです。私が「何ともならない」「どうしようもない」と諦めていた問題が、実は「何とかしようがある」かもしれない、そんな希望です。もちろん、この世のすべての問題を私一人で解決することは、不可能なことに変わりありません。しかし、学生や生徒の身分でありながらも、問題を分解し、課題にし、それに対応する解決策を創出することで、多くが解決できるのではないかと、今の私は考えています。

i-GIPの特徴は、課題解決そのものだけではなく、特定のステイクホルダーからの視点に寄らずに課題解決に関わる大学生と中高生の経験にあります。このことは閉鎖的になりがちな地域医療をよりオープンで柔軟なものにすることにつながると考えています。本年度のi-GIP 2022 KYUSHU開催によって、九州に住む人たちのいのちを守る手段が多様化し、守られるいのちを増やすことに多少は貢献できたのではないかと考えています。

今後も九州で、そして願わくばより多くの場所で、大学生や中高生がいのちを守るための多様な方法を知り、獲得できるよう、尽力して参ります。

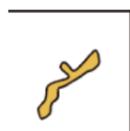
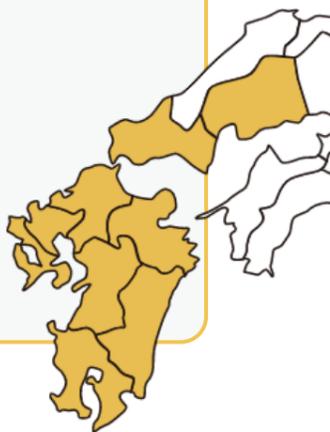
これからも応援よろしくお願いいたします。

参加校一覧 (順不同)

初開催にもかかわらず、全25校もの中学・高等学校のみなさんに応募いただき、選考を経て下記の中学・高等学校のみなさんと活動を行いました。

明治学園高等学校
自由ヶ丘高等学校
筑紫女学園高等学校
東筑紫学園照曜館中学校
中村学園女子高等学校
福岡県立修猷館高等学校
福岡県立城南高等学校

福岡工業大学附属城東高等学校
福岡大学附属大濠高等学校
福岡雙葉高等学校
八女学院高等学校
熊本学園大学附属高等学校
広島学院高等学校
広島大学附属高等学校



アドバイザーの先生方

今年度 i-GIP 2022 KYUSHU 開催にあたり、以下の先生方にアドバイスをいただきました。深く御礼申し上げます。



九州大学大学院医学研究院
循環器内科学教授

筒井 裕之



九州大学病院循環器内科
診療准教授

的場 哲哉



九州大学大学院芸術工学研究院
コンテンツ・クリエイティブ
デザイン部門准教授

松隈 浩之

<アドバイザーの先生方 訪問時の様子>



<KYUSHU Gakusei Heart Forum 2022 の様子>

Kick Off Meeting

講師

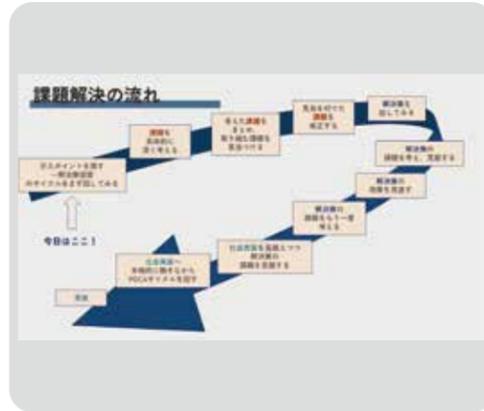
筒井 裕之
九州大学大学院医学研究院循環器内科学教授

的場 哲哉
九州大学病院循環器内科診療准教授

内容

心不全に対するご講演の後、他のチームのメンバーと一緒に、講演を振り返りながら心不全や心不全パンデミックの抱える問題を具体的に分解し、「課題」を見つけました。中々喋ることのない他の学校の中高生とディスカッションできるだけでなく、第一線で活躍される講師の先生方へ、直接質問する機会によって、「課題」について現場の声を聞くことができました。

7/10



Global Future Day

講師

小田 実里
一般社団法人 MAKEINU 代表理事 / 映画「今日も明日も負け犬。」原作脚本

宮本 大輝
株式会社TechSword CTO

浜中 康晴
Lea Bio株式会社代表取締役

内容

Global Future Dayでは、映画の脚本を手がけられた小田実里さん、AIベンチャーのCTOとして活躍される宮本大輝さん、外国の地で医師業務サポートアプリをリリースし、より良い医療の実現に尽力されている浜中康晴さんにご講演いただきました。普段からピッチやご講演など数多く行われている方が多く、「人に伝える」にはどうすればよいか参考になるだけでなく、1つ1つのご講演が皆さんの糧になりました。

7/24

Progress Day #1

講師

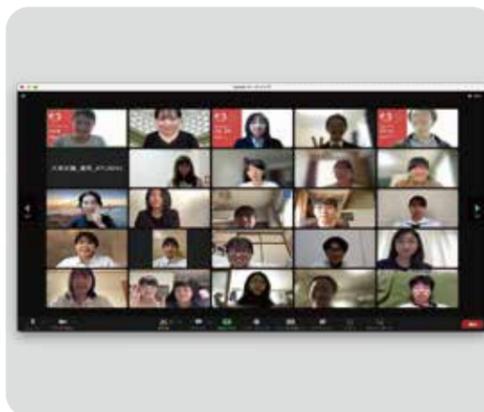
山口 尊則
佐賀大学医学部先進不整脈治療学講座教授

内容

心不全に対する応用的なご講演の後、他のチームのメンバーと一緒に、ブレイクアウトルームで、前の教育プログラムからの2週間で行った「心不全パンデミックの課題」を振り返り、修正しました。また、ブレイクアウトルームには講師の先生方も周回され、第一線で活躍される講師の先生方へ、直接質問する機会を持ち、「課題」について現場の声を聞くことができました。

8/7

合同中間コンペ



8/28

Seeds Day

9/11

WKC Forum

9/25



Progress Day #3

講師

松隈 浩之
九州大学大学院芸術工学研究院コンテンツ・クリエイティブデザイン部門准教授

内容

Progress Day #3では、プレゼンにおける重要なことを踏まえた上で練習することを目的に行いました。松隈浩之先生のご講演をお聞きしました。講師のご講演の後に1チームずつ個別にフィードバックをいただくとともに、ご講演の振り返りや相互フィードバック、チームごとの最終調整を行いました。KYUSHU Gakusei Heart Forum 2022 に向けた準備をしっかりと行うことができました。

10/2

10/16

10/30



Progress Day #2

講師

加藤 和磨
クオンタムオペレーションCEO

内容

Progress Day #2は、課題解決の特に社会実装面において、アドバイスや手がかりを得ること、そしてプレゼンやピッチにおいて重要なことを理解することを目的に行いました。講師のご講演の後に1チームずつ個別にフィードバックをいただくとともに、ご講演の振り返りや相互フィードバック、チームごとの最終調整を行いました。

KYUSHU Gakusei Heart Forum 2022

審査員

的場 哲哉
九州大学病院循環器内科診療准教授

山口 尊則
佐賀大学医学部先進不整脈治療学講座教授

井口 忠二
株式会社アスパートナー代表取締役福岡ヘルスラボ運営委員
STARTUP CAFEアンバサダーコンシェルジュ

松隈 浩之
九州大学大学院芸術工学研究院
コンテンツ・クリエイティブデザイン部門准教授

鮎澤 純子
九州大学医療経営・管理学准教授/九州大学病院
病院長補佐

内容

この約5か月間、心不全パンデミックという解決が難しい問題に粘り強く向かい合ってきた中高生が、解決策についてプレゼンテーションを行いました。加えて、お越しいただいた皆様それぞれが、それぞれの立場で考え、語り合う場となりました。

登壇チーム紹介

登壇チームと、KYUSHU Gakusei Heart Forum 2022の入賞チームをご覧ください。

今年度は1位から3位の表彰に加え、審査員の的場 哲哉先生より「日本循環器学会 2023 特別賞」を設けました。入賞したチームは、2023年3月に開催される日本循環器学会での発表権を得ます。

第1位

KAJI

KAJIは「服薬忘れ」に着目して、服薬アプリの実現に向けて動いています。アラームや服薬量を管理するアプリではなく、今薬を飲むこと / 飲まないことで自分の体がどのように変化しているか、今どのような状態なのかをアバターで表現します。アバターで表すことによるメリットの1つは、「データを個人化できること」です。現在の医学研究は、行動Aを行った集団と行動Bを行った集団を比較して、「全体としての結果」を示唆するものです。集団同士で比較することは、個人同士を比較するよりも研究としての結果の信頼度が高いとされていますが、その一方で多くの人々が気になるのは、「飲んだ方が良くと言われた目の前の薬を飲まなくても大丈夫なのかどうか、飲んだら”自分は”どうなるのか」だと思います。

KAJIの目指すアバター服薬アプリは、このニーズに応じて、患者さん個々の時間軸と薬の血中濃度に着目し、自分の体の中が薬でどのようにになっているかをリアルタイムで直感的に分かるような未来を目指します。



第2位

Team Bourgeon

Team Bourgeonが目をつけたのは「教師の過労による心不全リスクの上昇」です。親に教職員を持つ Team Bourgeonの2人は、強い思いを持ってこの課題に取り組みました。

厚生労働省によると月80時間以上の時間外労働は過労死のリスクを高めるとされており、これを過労死ラインと呼びます。しかし2021年における教職員の平均時間外勤務時間は92時間/月で、過労死ラインを超えているのが実情です。この現状を解決するために、Team Bourgeonは「学校版 POWER NAP」を考案しました。

POWER NAPとは昼間に15分取る短い睡眠のことです。お昼の短い睡眠は特に作業効率を上げ、結果的に労働時間が削減されたという結果も報告されています。

Team Bourgeonは校長先生に直談判し母校での実証実験を行いました。パワーナップ中であることを周知できるパワーナップボードシステムを加えたこともあり、POWER NAPは先生方に大好評を博しました。

既にTeam Bourgeonは他高校への導入へ向けて動き出しており、今後は学校の総合探求の時間等を活用して「学校版POWER NAP」の更なる普及を目指します。



第3位

ふるぐら

心不全で余命2週間と診断された患者さん、適切な服薬を行ったことでその余命はどのくらい延びたのでしょうか。答えは「2年」です。ふるぐらはヒアリングで伺ったこのエピソードをもとに、服薬の不徹底を解決することは大きなインパクトがあると考えました。

実際服薬の不徹底は再入院に大きく関連する問題であり、その原因には「服用し忘れ」が挙げられます。

膨大なヒアリングを重ねた結果、ふるぐらがたどり着いた解決策は「お薬救助犬」というペット型の声掛けロボットでした。この犬型ロボットは毎朝、鳴き声とともに服薬すべきお薬を用意してくれます。このアイデアを絵空事では終わらせないために、ふるぐらはロボットの構造をしっかりとデザインしました。

この犬型ロボットが「お薬」救助犬と呼ばれる所以は、首にぶら下げている専用の薬箱にあります。

この薬箱は樽型の構造をしており、内部には毎朝服薬すべきお薬が一包化された上でストックされている状態です。そして救助犬に備わっている人感センサーが反応すると、「ワン」という鳴き声とともに樽が回転し、薬箱の下にある容器にお薬が落とされます。

このシステムにより、毎朝患者さんが救助犬の前を通り過ぎるだけで、服薬を実現することができるのです。従来のお薬アプリやカレンダー、単なる一包化といった取り組みではまだまだ不十分です。お薬救助犬は実際に服薬の行動変容につなげることが可能な、画期的な解決策です。



日本循環器学会 2023 特別賞

sky-sunset

sky-sunsetが提案するのは心臓リハビリテーションの離脱率を減少させる夢のようなポスター「Dream poster」です。

心不全で入院中に心リハを行っていた患者さんの中で、退院後も心リハを継続した方は約6人に1人という研究データは広く知られています。sky-sunsetはこの「大きな切れ目」に着目し、その介入方法としてモチベーションを上げる・運動方法を提案することを考えました。そこで生まれたのが「Dream poster」です。このポスターは運動した日にシールを貼ることで1ヶ月で絵を完成する仕組みとなっており、自宅での運動習慣の向上を目指します。このポスターは最後の心リハで患者さんに手渡すことで、その後最低1ヶ月に1回は心リハに来てもらうことを目標としています。さらに運動方法の提案を行うために、約5分間の運動メニュー動画を作成し、その動画のQRコードをポスター内に掲載しました。またモチベーションの維持のため、心リハを継続していく中で段階に応じた「短期目標(Dream)」を設定する欄も作成しています。

今後sky-sunsetは大学病院と連携し、理学療法士さんとの最終的なすり合わせを行った後、試験運用に入る予定です。このDream posterが実際に患者さんの手に届くまで、あともう少しです。



痛み和らぎ腰に優しい日常を



五嶋 大暉 / Daiki Gojima
徳島大学医学部医学科4年

腰痛は将来みなさんに起こりうる身近な問題です。腰痛の最大の問題は腰痛そのものが軽視され、対策が早期に着手されていないことで長期化し、精神的・肉体的に生涯にわたって疲弊することです。生活において腰痛が発生することは多いですが、しっかりとした治療、対応がされているかという、そうではありません。私は課題が決まってから多くのかたと話す機会がありました。そして、4分の1どころではなく、ほぼすべての大人が腰痛の経験があったり、若い人それこそ私たちと同じように学生であっても悩んでいる人が多いことを知りました。今は元気かもしれない、でも将来いつでも発症しうる。腰痛を考えることは他の人のこと、自分の将来や健康を考えるきっかけにもなります。これからの社会を作っていく私たち若者が、一丸となって腰痛対策にイノベーションを起こします。大人だけでは今まで解決しきれなかった、医療・教育・福祉がからむこの難題に、私たち若者が本気で取り組みます。



「4人に1人」

「4人に1人」

この数字は日本人のうち腰痛を抱えながら生きている人の数です。

この数はコロナウイルスの影響による生活の変化も加わって加速度的に増えているとも言われています。

一度、腰痛を抱えると、生活に支障が生じ、今まで通りの生活が行えなくなったり、常に健康面の不安に晒される事となり、日々の生活や、その後の人生、周囲の人間関係にまで多大な影響を与えます。

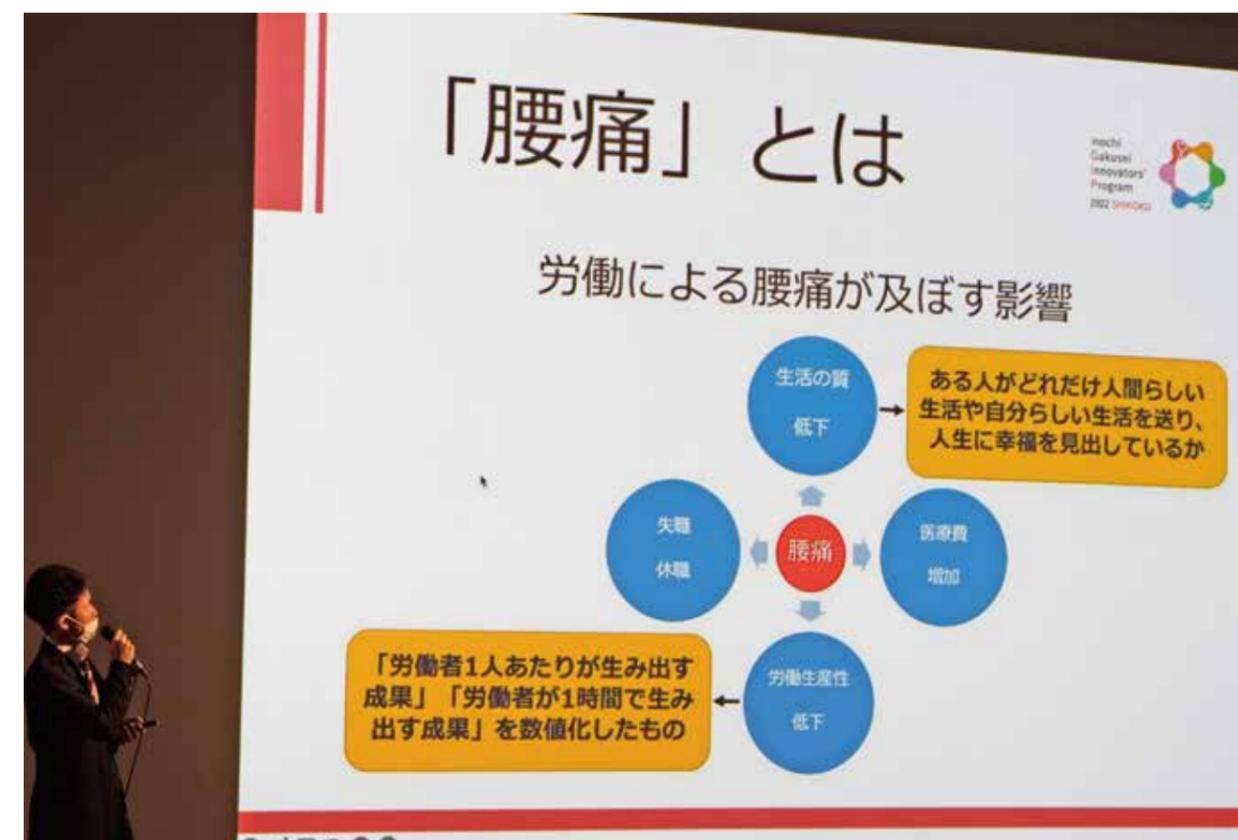
腰痛について様々な取り組みが行われていますが、この課題が解決されるには十分とは言えず、社会全体でアプローチしていくべき課題であると捉えました。

ではそんな課題になぜ若者が取り組むのか？

それは、若者である私たち中高生・大学生が腰痛について考える事で、腰痛の従来のイメージである「お年寄りの症状」「なっても仕方ない」と言った認識を変えることができると考えるからです。

若者発信で腰痛は高齢者だけの問題ではないと、社会に呼びかける。そうすることで、全ての世代が自然と腰痛と向き合える、そんな社会が創られると思います。この活動はそんな社会の実現のための大きな一歩となることと思います。

腰痛分野がホットである四国、徳島から、地域と連携して全ての人が腰痛を気にせず、安心して暮らせる社会を目指します。



アドバイザー



北岡 和義
徳島大学教養教育院 創成科学教育分野准教授
産業院教育・経営支援部門長



西良 浩一
徳島大学大学院医歯薬学研究部
運動機能外科教授

共催・後援

共催 一般社団法人inochi未来プロジェクト
後援 徳島県 / 徳島大学

教育プログラム

キックオフ

講師
西良浩一
徳島大学大学院医歯薬学研究部
運動機能外科教授
中井洸我
i-GIP SHIKOKU 社会実装アドバイザー

内容
講演
①「腰痛とは、未来人へのメッセージ」(西良)
②GIPにおけるアイデアの考え方(中井)

WS
①「腰痛とは?」
②「ヒアリング体験」

7/10

ニーズに沿ったアイデアの創出
stage2:課題の収束

講師
伊藤かよこ先生(鍼灸師)
『人生を変える幸せの腰痛学校』著者
友成健先生
徳島大学病院リハビリテーション部(理学療法士)

内容
講演「心理的腰痛へのアプローチ」(伊藤)
事前講演への質問会(友成)

WS
①ヒアリングされることでヒアリングを見直そう
②ヒアリングからニーズを生み出そう
③ニーズを発表してみよう

7/31

ニーズに沿ったアイデアの創出
stage3:解決策の発散と収束

講師
中井洸我
i-GIP SHIKOKU 社会実装アドバイザー

内容
つくばウェルネスリサーチ様のヒアリング内容
に対するディスカッション
講演「解決策の考え方」(中井)

WS
①解決策を考えよう
②プレゼンを作ってみよう
③解決策のミニコンペ



自身と将来を再考する

内容
普段のチームとメンバーを
シャッフルして、「未来の
病院のあるべき姿」でディ
スカッション・発表。

8/14

8/27

中間発表

審査員
審査において、「アイデア思考(北岡、石原)」「腰痛(心理的:青木、肉体的:藤谷)」「公衆衛生・行政(森岡)」という多面的に腰痛を分析するように審査員を選出。

北岡和義
・徳島大学教養教育院 創成科学教育分野准教授
・産業院教育・経営支援部門長

青木俊一郎
・福島県立医科大学医療人育成・支援センター
医学部神経精神医学講座 助教
・公認心理師

森岡久尚
・徳島大学大学院 医歯薬学研究部
公衆衛生学分野 教授

藤谷順三
・徳島大学大学院 運動機能外科特任講師
・健康運動指導士
・ピラティスインストラクター

石原佑
・徳島大学 高等教育研究センター
学修支援部門 特任助教
・NPO法人Arts Shikoku理事
(デザイナー・実務家教員)

順位 (チーム名 / スコア)

- 1位 たぐプラFellows / 73.666
- 2位 WEST SUMMER / 67.333
- 3位 長生き元気's / 66.833
- 4位 ペンは剣より強し / 65.666
- 5位 コミュコミュ / 61.666
- 6位 ポップ会 / 56.666

10/8

プロトタイプブラッシュアップと 社会実装を理解する日

10/9

講演

「コミュニティの中で
腰痛をなくすためには」

元廣敦
株式会社 Canvas 共同代表
作業療法士

「腰痛アプリにおける開発と効能」

林 慎一郎
株式会社 ZENPLACE
「腰痛ドクター」開発エンジニア

内容

現状のプロトタイプを発表し、それに対する、
アドバイスを講師の2人にいただきました。

教プロ
3-2



最終発表会

11/3

講師

北岡和義
徳島大学教養教育院 創成科学教育分野准教授
産業院教育・経営支援部門長

西良浩一
徳島大学大学院医歯薬学研究部 運動機能外科教授

元廣敦
株式会社Canvas共同代表

松平浩
東京大学医学系研究科特任教授
福島県立医科大学医学部 疼痛医学講座 特任教授

鎌村好孝
徳島県保健福祉部 感染症・疾病予防統括監

i-GIP SHIKOKU 独自の取組

腰痛の専門家のヒアリングに行いました。

「産業医から見る腰痛」
高山真一郎
高山医学労働衛生管理事務所 所長
東京女子医科大学 非常勤講師

「職業病腰痛」
岩切一幸
株式会社つくばウェルネスリサーチ

「スタートアップと社会実装」
福谷直人
株式会社バックテック



チーム紹介

たぐプラFellows



徳島市立高校

ペンは剣よりも強し



徳島市立高校

コミュコミュ



徳島県立城之内高校、徳島県立鳴門高校

West Summer



徳島文理高校

ポッポ会



徳島県立城南高校

長生き元気's



徳島県立城東高校

ファミハグ「若者から未来の子育てを創造する」

代表挨拶 (ファミハグの設立経緯)

中学時代の友人が大学生となって自殺をしたことを経験し、精神的なストレスをもった人の命を救うことに強い関心を持ちました。自殺の課題を探る中で、精神的なストレスがある人の中でうつ病や自殺にいたるか否かは、周りのサポートがどれだけあるかによることを知り、地元を離れた僕には何も出来なかったことに無念を感じました。しかし、僕個人には直接何かをできなくても、周りのサポートを生み出す仕掛けは作っていきけるのではないかと希望を見出し、もっと生きやすい社会を作るための仕掛けをつくる決意をしました。そして昨年 i-GIP 2021 TOKUSHIMA で、中高生と大学生で産後うつの課題解決に取り組み、産後うつ予防のボードゲームというアイデアを高校生と一緒に創出しました。このボードゲームは産後うつのボトルネックとなる孤立した「孤育て」を防ぐためのもので、周りのサポートを適切に受け取ることができずに孤立していくパパママを1人でも減らしていきたいという思いから生まれました。

子育ては母親のものではなく、社会全体のものであるという認識こそが未来の子育てと考え、ファミハグは「若者から未来の子育てを創造する」を理念として、子育て環境のあるべき姿を追求しています。

メンバー・お世話になっている方々

						
代表 徳島大学医学部4年 中井洸我	広報 東京医科歯科大学 歯学部2年 今野由菜	デザイン 女子美術大学4年 中村こみち	開発 東京芸術大学3年 小林光	指南書担当 日本大学医学部1年 渋川陽菜	エビデンス研究 徳島大学医学部2年 塚田さら	総務 東京女子医科大学 医学部1年 石原昌子

お世話になっている方々

株式会社学研ステイフル 代表取締役社長 福本 高宏
株式会社学研ホールディングス及び株式会社タカラトミー 社外取締役社長 伊能 美和子

9/23 学研ホールディングス本社における戦略企画会 参加者一覧

株式会社学研ステイフル 代表取締役社長	福本 高宏
株式会社学研ホールディングス及び株式会社タカラトミー 社外取締役社長	伊能 美和子
株式会社学研ホールディングス デジタル戦略本部副本部長	伊藤 弘希
株式会社学研ココファン・ナーサリー 園長	近藤 光江
株式会社タカラトミー	池澤 圭
株式会社学研ココファン・ナーサリー	子安 暁史
学研子育て事業推進部副部長	今池 弘美
株式会社学研プラス 取締役	川田 夏子
株式会社学研ココファン・ナーサリー 代表取締役社長	山崎 知恵
徳島大学病院 産婦人科教授	岩佐 武
徳島県庁 健康づくり課	高瀬 彩水
地域産婦人科診療部 特任助教	新垣 亮輔

プロジェクトの特徴

情報、企業、行政、パートナーから子育ては孤立してきました。子育てを始めて、初めて知るたくさんの情報、生きがいの喪失、十分に活用しきれない医療や行政支援、パートナーの子育てへの理解不足を通して、周りに頼ることができなくなってしまった……そんな子育ては誰も望んでいません。必要な時に必要な支援を、人やもの、機関から受けとることができることで、産後ストレスを軽減し、家族の絆形成が阻害されない子育てを目指しています。

99人のママの声をもとに作成

マス目は99人のママの声をもとに作成されています。産前から出産1年目までの間で起こるイベントや公的な支援を含め周りの方の心温まるエピソードを掲載するなど、妊娠・出産・育児中のイメージをクリアにすることにより、出産前の育児不安を軽減する効果が期待されます。

<プレイヤーに与える心理的変化や技能>

実際のパパママさんの声をもとに作られた子育てトラブルのマス目に応じて、子育て支援カードを使うことによってトラブルを回避していくボードゲーム。これによって、社会サービスへのアクセスと困った時に人やものに頼ることができる力を育みます。また、産後うつに罹患した時に、どこに頼ればよいのかに関する知識までカバーしています。

<ゲーム性への工夫>

実際の声をもとにしたリアル感と、子供の成長や妊娠周期に沿った身体的心理的変化を積極的に取り入れ、ボードゲームを遊ぶ中で、まるで子育てを疑似体験しているかのような感覚を得ることができます。

<ボードゲームであることのメリット>

ゲームによって会話が促進されることで、遊ぶプレイヤー同士で子育てへの考えを共有しあえるコミュニティ形成にも繋がります。



WAKAZOとは

WAKAZOについて

WAKAZOは、医療系学生を中心とした150名以上からなる次世代イノベーター集団「inochi WAKAZO Project」が行っているプロジェクトの一つです。(inochi WAKAZO Project は、中高生課題解決プログラム「inochi Gakusei Innovator's Program (i-GIP)」と「WAKAZO」の、2つのプロジェクトに分かれています。)

医学生を中心としたメンバーで、「誰かのいのちのために自分のいのちを大切に作る未来社会づくり」を行っています。

WAKAZOのミッション

『誰もがいのちを守り合う、新たな未来を創造する。』

今年度の活動人数：38人

メンバーの所属大学（一部）：東京大学医学部、東京医科歯科大学医学部 / 歯学部、慶應義塾大学医学部 / 総合政策学部、同志社大学文化情報学部、立命館大学政策科学部、日本大学医学部、北海道大学歯学部、新潟大学工学部、久留米工業高等専門学校、広尾学園高等学校 他多数



Main Project ▷ P 54
inochi のペイフォワード

研究室や企業と共創しながら、淡路島と Osaka Great Santa Run でデータを扱う実証実験を行っています。

inochi のペイフォワード
実証実験 ▷ P 56

実際に WAKAZO では実証実験を行い、参加者とともに作る新たな助け合いの形を提案してきました。

大阪・関西万博への展開
▷ P 58

WAKAZO 独自の企画を通し、万博のテーマである「いのち輝く」について、正面から向き合ってきました。



「若造」である私たちには、未熟なところもあるかもしれない。でも、私たちがこれから過ごす未来だからこそ、私たちの手で未来を創っていききたい。そんな想いを持って、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の1つとして、誰もがいのちを守ることにつながる「inochi のペイフォワード」を考案し、現在実装に向けて実証実験を進めています。世界中の若者と共に未来を作る場を目指して、万博にて、サミットの開催も構想しています。2025年に次世代のリーダーが集い、次の未来を創る起点となる万博、そしてその先のいのち輝く未来の実現に向けて、もう WAKAZO は動き出しています。

WAKAZO代表 立命館大学政策科学部政策科学科1年 飯塚 遼馬

WAKAZOの歩みとこれから

- 2016 「2025大阪万博誘致若者100の提言書」を松井元大阪府知事に提出
- 2017 若者の力で大阪万博誘致の実現を目指す団体として、「WAKAZO」が本格始動。
- 2018 ・BIE総会で日本代表団の一員として、WAKAZOメンバーが万博招致プレゼン
・大阪 関西への万博誘致が決定
- 2019 「万博のインパクトを活かした大阪の将来に向けたビジョン有識者ワーキンググループ」有識者委員として、「ウェルビーイング中心社会/万博」を提言
- 2020 inochi未来フォーラムにて、宮田裕章先生、石黒浩先生、博覧会協会副事務総長の森清様などをお招きし、「inochiのペイフォワード」の構想を発表
- 2021 ・「inochi未来・WAKAZO適塾」全8回が終了
・「inochiのペイフォワードプロジェクト」第一回実証実験（2021年12月）
・海外の若者との共創を開始「WAKAZO Global Discussion Event」（2021年11月）
- 2022 ・「WAKAZO PLL Talks」シリーズスタート
・「inochiのペイフォワードプロジェクト」第二回実証実験（2022年11月）
・「inochiのペイフォワード」がPM Award 2022優秀プロジェクト賞を受賞



万博誘致 成功の瞬間

万博若者会議

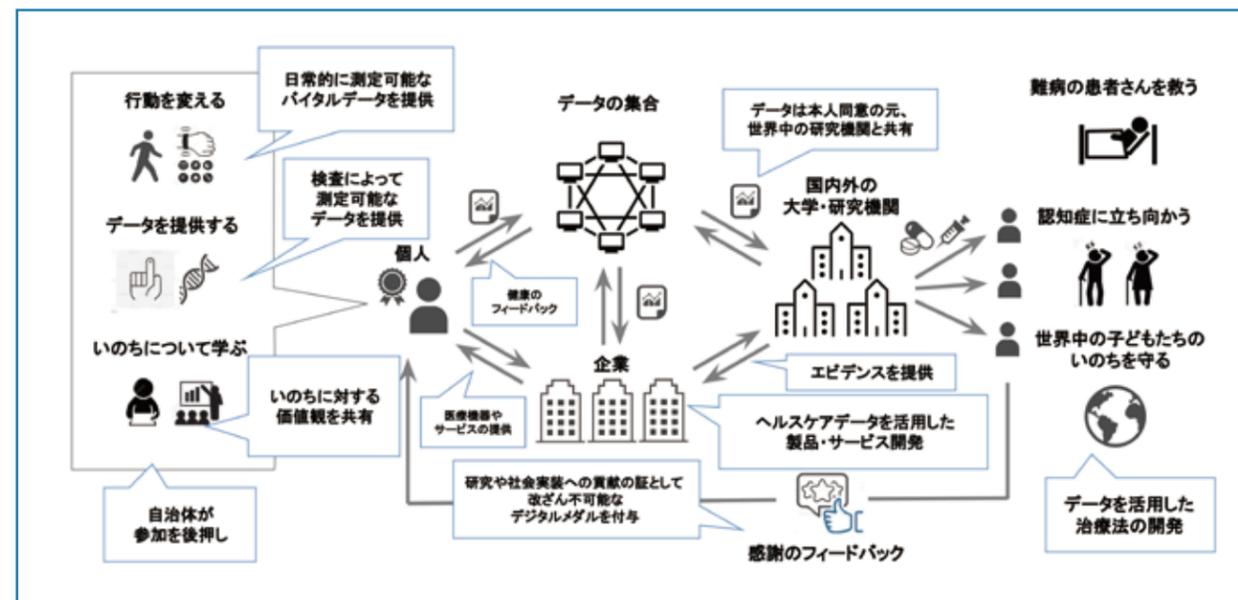
- 2025 大阪・関西万博
「inochiのペイフォワード」によっていのちを守り合う未来を、WAKAZOは実現します。

「inochiのペイフォワード」プロジェクト

inochiのペイフォワードプロジェクトとは

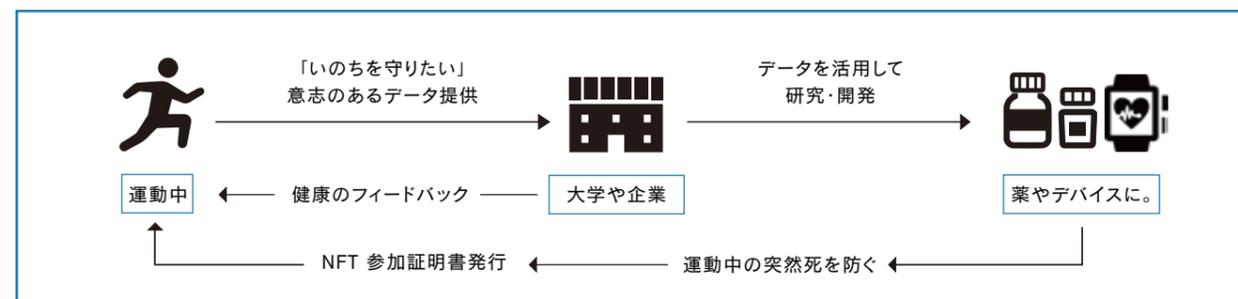
inochiのペイフォワードとは、献血のように自分のヘルスケアデータを誰かのために提供することで、直接的に救われるいのちに加え、データ共有の積み重ねによる技術革新によって、社会全体のいのちが守り合われるような未来社会を実現するためのデザインです。現在、医療分野ではまだまだデータの利活用が進んでいない現状があります。特に私たちは日常で取れるリアルワールドデータに注目し、ランニングと心理状態の相関についての実証実験を行いながら、誰もがいのちを守り合う新たな未来を目指しています。

あなたのデータが、誰かのいのちのちからになる。



inochiのペイフォワード 未来図

inochiのペイフォワードの例



2022 登壇記録

WAKAZOでは、2025年大阪・関西万博とその未来で実現したいことについて、登壇を通して社会へ発信しています。

- 2021 8/27** 大阪関西万博 EXPO PLL Talks 「いのちを高める」シリーズ kickoff!!
 - 未来の地球学校：あなたと共に創る協奏社会 -
 登壇者：小島祐依
- 10/21** 朝日地球会議 2021 - 大阪・関西万博 未来社会をどう描く -
 登壇者：木島優美
- 2022 1/28** 第8回シギノ産官学万博企画会議
 登壇者：飯塚遼馬
- 7/24** 万博大学連合イニシアティブ：キックオフイベント
 登壇者：飯塚遼馬
- 9/20** PM Award 2022 ファイナルプレゼン
 登壇者：飯塚遼馬
 日本優れたプロジェクトを表彰する PM Award 2022 で、【優秀プロジェクト賞】
 【岡山大学 SDGs デザイン賞】2つの賞をいただきました！
- 10/24** IPM2022 (国際企画会議 2022)
 登壇者：松井瞳、飯塚遼馬
- 11/1** Awaji Well-being ビジネスコンテスト 2022
 登壇者：松井瞳、鈴木光穂
- 11/21** 第5回 Nikkei Super Active Ageing Society Conference
 登壇者：松井瞳、鈴木光穂
- 12/11** 第5回 ヘルシーキャンパスフォーラム & 第11回京都学生健康フォーラム
 登壇者：飯塚遼馬



「inochi のペイフォワード」実証実験 2021

2021年、WAKAZOは「Great Santa Run 2021: Virtual」を最初の舞台として、新たな未来社会を実現させるための実証実験「inochiのペイフォワードプロジェクト」を行いました。

「サンタラン参加者のランニングと身体活動量の定量的評価探索的研究」をテーマに、参加者に対する短期的なフィードバックとヘルスケアデータインについて考えるきっかけ作りを行いました。

協力してくださった企業

【協力】 Great Santa Run 2021:Virtual

【研究協力】 大阪大学大学院 医学系研究科 スポーツ医学



報告書の概要

『チャリティーランイベント参加者におけるランニング指標と精神状態の定量的評価探索的研究』

『「誰かのいのちを守るため」という思いで自分のヘルスケアデータを提供する」という考え方を「inochi のペイフォワード」として、データを提供することに対する意思を探索的に集積しました。

本研究では、ランニングと精神状態の相関を見ることに加えて、ランニングフォームと精神状態のランニング前後の変化を見ました。本報告は、健康状態を維持又は高めるためにランニングや歩行を行う必要性や、現在健常者にどの程度のどのようなランニングや歩行が勧められるかの情報を得ることへとつながり、医学的・社会的意義があると考えられます。データ集計が可能となった 28 名から、ランニング前後の変化量について、活性度が 4.5、安定度が 0.0、快適度 3.5、覚醒度 4.0 であることが解析でき、またランニング前と比べて後にはイキイキして活力があり、快適で明るい気分になり、興奮して活発な状態になった様子が見られました。解析の結果、ピッチが大きく小刻みな走り方とランニング前の安定度の高さ、減速量の値が小さい走り方とランニングによる正の活性度変化量の値、また、蹴り出し時間の値と接地時間率の大きさとランニング後の安定度の高さについて相関があることが分かりました。

「inochi のペイフォワード」実証実験 2022

淡路島プロジェクト

Awaji Well-beingビジネスコンテスト2022において、「inochiのペイフォワード実証ブース」を設置し、ビジネスコンテストの会場参加者を対象として、inochiのペイフォワードの実証実験を行いました。淡路島でも高齢化が進んでいますが、inochiのペイフォワードを通して、超高齢社会でも健康で幸せな暮らしが実現できることをWAKAZOは目指しています。

実施概要

日時2022年11月1日(火) 10:00-18:00

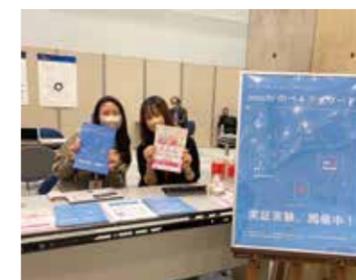
会場：兵庫県立淡路夢舞台国際会議場イベントホール

実施方法

- ①ペイフォワードの主旨説明、参加の同意取得
- ②身体、認知機能の計測
- ③NFT発行

自分のデータを取ることが誰かのためになることを実感し、そこから自分の命を大切にしようと思ってもらうことを目標としました。

協力：株式会社トータルブレインケア、大阪大学大学院 医学系研究科 スポーツ医学



会場で配布したNFT



Osaka Great Santa Run 2022 における inochiのペイフォワード実証実験

2021度のサンタランは、東大阪で市民の方を集めて実証実験を行いデータ解析を行ったサンタランですが、2022度の実証実験は、「2023度のサンタランの予備研究」という形で自分たちのデータを自分たちでとる実証実験を行うことになりました。

日時 11月27日(日)

場所 大阪城公園 (大阪府大阪市中央区大阪城1-1)

大阪・関西万博への展開

私たちはメインプロジェクトである「inochiのペイフワード」の実現に向けた実証実験のほか、いのちの「生と死」についての対話を行い、「幸福な生き方とは何か」という普遍的な問いについて、若者の視点で正面から向き合ってきました。

いよいよ、2025年には大阪・関西万博が開催されます。

万博は、その時代の技術や芸術を世界に向かって発信する機会です。これまでも、AEDや電気自動車などの革新的な技術や「モノ」が発表され、現在に残っていききました。

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした今回の万博で、WAKAZOはモノではなく「人」を残したいと考えています。万博に参加する若者はいのちの担い手となり、将来、それぞれの方法で「いのち輝く未来」を実現するでしょう。

WAKAZO ANOTHER WORLD

万博には、人・モノを呼び寄せる求心力と発信力があります。

そんな万博において、1人でも多くの人に万博に触れてもらうことで未来にレガシーを残していきます。

そこでWAKAZOが実現したいのは、世界中の若者が集う催事「WAKAZO ANOTHER WORLD」です。

「LIFE&DEATH（死を考え、生きることを問う。）」をイベントテーマとして、すべての生命に共通する「死」について感じ、考え、議論し、理解を深めることで、「生きることとは何か？」を問いかける1日を万博で実現することを目指します。そして、WAKAZO ANOTHER WORLDを通して、皆がいのちを守り合う未来を実現したいと考えています。具体的には、以下の3つのイベントを起こすことを考えています。

① CONFERENCE

メタバースを、リアルに再現したベニューでカンファレンスを開催します。世界中のアバター年齢 U30 が集い、サイエンス、テクノロジー、アート、デザインを横断し、いのちの対話を行います。

② LAB

データドネーションプロジェクト、inochiのペイフワードの大規模実証を万博会場で開催します。バイタル、活動量、感情などあらゆるデータを取得し、本人同意の元、オープンデータとして公開します。

③ FES

万博会場全域で、ストリートフェスを開催します。世界中のアバター年齢 U30 の若者によるライブ、ダンス、パフォーマンスで、万博会場を異次元の空間にします。

また、2022年8月26日には、咲洲庁舎にて「2025年の大阪関西万博に向けて如何に世界の若者を日本に集める事ができるか」というディスカッションを、WAKAZOとi-GIP USAに参加する海外学生と博覧会協会様で行いました。WAKAZOが掲げる万博に向けたコンセプトである「Human Legacy」について各立場から意見をもらい、万博に向けて海外の学生も巻き込みながら進めていくことを確認しました。



WAKAZOコンテンツ

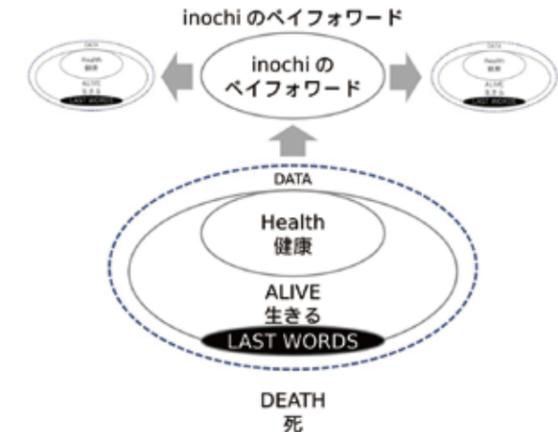
「誰もがいのちを守りあう、新たな未来(=いのち輝く未来社会)を創造する」ために、

- ①「死」を考えることをきっかけに「生」の大切さ、重さ、尊さを理解する
- ②データを他者に還元していのちを守る行動をとる

ようなsympathizerを、若者が先頭に立ち、万博の場で増やしたいと考えています。

ここでのデータとは、心拍数や体重などの数値化されるヘルスケアデータだけでなく、死生観に関する対話などの言葉のデータを含み、また還元対象となる他者とは、需要に応じて拡張できる概念としてあらゆる市民を包含しています。

実際にこれらを実現するために、今回のフォーラムではデータとして、死と生に向き合うサードプレイスへの入り口となるLAST WORDSを掲げます。



コンテンツ概要

① 代表挨拶:「死の語らい」を「生きるちから」に変え、分け与える

重く難しくも尊い生死に関する問題とゆっくり向き合えるようなサードプレイスを提供することや、今若者が死について考える意義についてお話しします。

② LAST WORDSインタビュー(ビデオメッセージを含む):「死の語らい」の紹介

WAKAZOが今まで交流を持った若者に対して、死生観に関するインタビューを行う様子を、これまで行ってきた死生観に関する対話イベントの概略やインタビューで出たLAST WORDSのテキストマイニングの様子を示しながら紹介します。

③ パネルディスカッション:「死の語らい」を行い「生きるちから」への展望を見せる

以下のキークエスチョンを元に「生と死」と大阪・関西万博について熟議を展開します。

Key Question

1. あなたの思い描く「LAST WORDS」は?
2. あなたは「LAST WORDS」に向かってどのように生きていくか?
3. 若者が万博に向けてどのようにいのちの輝きを守っていくか?

④ inochi WAKAZO Projectから 2025年大阪・関西万博に向けての宣言

2015年からいのちと向き合いその想いを脈々と受け継ぎ、これまでさまざまなヘルスケア課題に取り組んできたinochi WAKAZO Projectが、若者から2025年大阪・関西万博で実現したいことを宣言します。

Japan-America Innovators of Medicine (JAIM)

日米の優秀な学生の知を合わせヘルスケア課題の解決に貢献する

Japan-America Innovators of Medicine (JAIM)は、日米の医療に関心を持つ学生が認知症の先進国である日本に集まり、日米の知を合わせ認知症課題の解決に取り組む実践型プログラムです。UCLA とStanford に在学する米国学生を日本に招待して、認知症に関する現場を見学することで、まずは超高齢化社会日本が抱える医療課題を体感し、その上で課題に対するソリューションを創出し、最終的には日米を始め世界中で通用するイノベティブな解決策を開発することを目指します。



プログラムの流れ

8月19日～20日: Bootcamp @Stanford 大学&UCLA

19日はStanford Biodesign の講師による「Need-driven innovation」の講義を受け、Stanford Biodesign の施設の見学を行いました。20日はUCLA でビジネス・ケースを学習し起業について議論を交わしました。

8月21日～30日: ニーズ・ファインディング @日本(東京+大阪)

JAIM の参加者は病院、介護施設、在宅介護など、様々な認知症ケアの現場を訪れました。それから八木先生によるワークショップを受け、3日間かけてソリューションアイデアを創出しプロトタイプを開発しました。最終日には澤先生と池野先生の前でデモとピッチを発表しました。

9月～: 実装フェーズ @カリフォルニア

JAIM 参加者の9名は日本で訪れた見学先で得た知見を元に、カリフォルニアでプロトタイプの改善をしつつスタートアップの設立や製品化の実現に向けて現在も稼働しています。

Co-Organizer

Stanford Biodesign

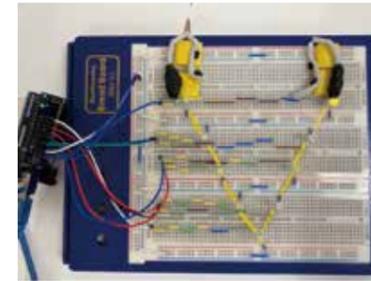
Stanford health++/SHIFT



アウトプット

プロジェクト中に考案された解決策をご紹介します。これらはカリフォルニアに持ち帰られ、米国の施設でのヒアリングとプロトタイプ改善により現在も実装に向けて稼働しています。

「レム睡眠行動障害」 チーム Sleep-EZ



レビー小体型認知症患者の76%がレム睡眠行動障害を有し、その64%が睡眠中にパートナーに暴行を加え、32%が自分に無意識に暴行を与えている。黄色いイヤホンのようなデバイスを一日一時間だけ装着し、経皮耳介迷走神経を電流で刺激することで睡眠中の怪我を減らすことができます。これにより、年間70億ドルの医療費を削減することができます。

「アジテーション攻撃」 チームSKAYA



米国では認知症患者580万人のうち232万人が攻撃的になってしまい、やむを得ず在宅介護から施設に移され医療費の増加や病態の悪化に繋がります。このデバイスは音声データを収集し、ニューラルネットワークによる音声感情分析を行い興奮状態を分類することで攻撃的になることを防ぎます。そして、アバターからの介入と家族介護者への通知によって、攻撃のトリガーとなるものを対処します。

「患者介護者間コミュニケーション」 チーム KUMa



認知症患者は介護者に自分の思いを伝えることが困難ですが介護者は既にその上に疲労や人手不足に悩まされています。本製品は介護者が装着するデバイスで、小型カメラが捉えた患者の微細な仕草や顔の動きをコンピュータビジョンソフトウェアで分析し、その患者の感情や介護者が取るべき行動がイヤホンを通して提案として出力され、結果的に介護者のストレスを軽減することができるファッションなイヤホンです。

inochi Gakusei Innovators' Program 淡路島

i-GIP 淡路島 とは

高齢化率37%の淡路市において、特に問題視されている「認知症」と「子育て支援」の2つのテーマについて、課題を特定し解決策を創出することを目指し、本年度初開催されました。

スケジュール概要

8/26-27 第1回運営合宿

<淡路島のヘルスケアの現状を知る>

淡路島にて新型コロナウイルスの感染が拡大していたため、「子育て支援」のテーマに限定してヒアリングを行いました。1日目は株式会社パソナグループの「ひとり親支援プロジェクト」で淡路島に移住されたひとり親の方と、淡路市子育て支援課の職員の方にお話を伺いました。2日目は移住相談を行っている「NPO法人島くらし淡路」の方にお話を伺いました。車社会ゆえに全世代が運動不足になっていることや、新しく移住してきた家族が地域住民と打ち解けることが難しいことなど、淡路島独自の課題について知りました。

10/1-2 第2回運営合宿

<運営大学生で淡路島のヘルスケアの課題を特定し、解決策を考える>

運営大学生で認知症チーム、子育て支援チームに分かれ、アイデアソンを行いました。認知症チームは、「認知症患者を抱える家族が、家族の人が認知症であることを周知しないため、地域の人からサポートを得られず、孤立しているように感じる。」という課題、子育て支援チームは「小学校低学年の小学生が1週間の運動量が少なく、将来糖尿病になるリスクが高くなっている。」という課題に対して解決策を考えました。淡路島のヘルスケア課題について問題の本質を深く考える機会になったとともに淡路島の高校生にアイデアソンをしてもらうときにどのようにファシリテートすれば良いのかを学びました。

<第1回 運営合宿の様子>



<第2回 運営合宿の様子>



10/27 出張授業@兵庫県立津名高等学校

淡路市にある津名高校の2年生は「REBORN Project」という地域の課題解決を通して地域創生を目指すプロジェクトに授業で取り組んでおり、今回はi-GIP淡路島の運営大学生で、ヘルスケアに関する課題に取り組んでいる高校生に向けて出張授業を行いました。出張授業前の高校生の解決策は高校生で実現するには難しいものが多く、出張授業を通して高校生が実現できる解決策の創出を目指しました。大学生の「高校生にしかできないことってなんだろう」という問いかけに対し、活発に議論しながら多くのアイデアを出していた様子がとても印象的でした。また、淡路市の高校生も私たち大学生と同じ問題意識を持っているということに気づきました。

11/1 Awaji Well-being Week 登壇

株式会社パソナグループ主催のAwaji Well-Being Week ビジネスコンテスト 2022において、「i-GIP in 淡路島 若者が考える健康島」という題目で私たちの取り組みや今後の展望について発表させていただきました。多くの人から良い反響をいただき、i-GIP淡路島は学生だけの活動ではなく、地域に育ててもらったプロジェクトであると実感しました。

<出張授業の様子>



<Awaji Well~Being Week 登壇の様子>



今後の展望

神戸市などの都市部に住んでいると、日常生活で高齢者と接する機会があまりなく、日本の深刻な高齢化社会を実感することが難しくなっています。一方で、高齢化の最前線とも言える淡路市であれば、高齢化を肌で感じている高校生が当事者意識を持って高齢化社会の問題に取り組むことができると思います。津名高校での出張授業で、高校生に「地域のために何か貢献したい」という思いがあることを知ることができました。私たちは高校生にその気持ちを行動に移すための知識を提供したり、コネクション作りを手伝うことができます。淡路市の高校生と力を合わせて、淡路市のヘルスケアの現状を変えるアイデアの創出を目指していきます。

ヘルスケアに対する意識が高い高校生が増え、その高校生のアイデアで少しずつ淡路島のヘルスケアが変化していくことで、淡路島全体のヘルスケアの意識改革を起こしたいと思います。ヘルスケアの意識改革を淡路島からはじめ、全国に広げていきたい、それが私たちが目指すことです。出張授業の開催はその第一歩目です。

淡路市の高校生と淡路島の今を変える、淡路市の高校生と日本の未来を変える、この2つをモットーにこれからも淡路島で勢力的に活動していきたいです。

個人のお客さま対象

りそなグループアプリ

個人のお客さま限定

いつでもどこでも
スマホがあなたの銀行に

口座残高や入出金の確認はもちろん
振込をはじめとする様々なお取引がスマホで完結

安心安全セキュリティ



パスコードロック
生体認証



セキュリティ
パスワード



カードロック

400万
突破!
ダウンロード数
2022年7月時点



おトクなポイントサービス

りそな
クラブ

りそなクラブの詳細はこちら



いつでも貯まる。どこでも使える。



りそなグループアプリ

ダウンロードはこちらから



GOOD DESIGN

Team Lab アプリ開発: チームラボ

キャンペーンやアップデート情報など配信中!

りそなグループアプリ【公式】 検索



「残高どうなってる?」
そんな時はその場ですぐチェック!

残高確認



「あっ!明日は引き落としの日だ」
出金予定を事前にお知らせ

引落予定通知・実績通知



「振込しなきゃ...」
移動中でも即完了

振込

【りそなグループアプリに関するご注意事項】 ●りそな銀行、埼玉りそな銀行、関西みらい銀行のキャッシュカードをお持ちの個人のお客さまがご利用いただけます。事業用口座にはご利用いただけません。 ●マイゲート(インターネットバンキング)のメイン口座にてご利用いただけます。またスマートフォン1端末につきりそな銀行、埼玉りそな銀行、関西みらい銀行の普通預金1口座のみご利用いただけます。 ●詳しくは各社ホームページ等をご確認ください。

ポイントがたまる

＼初めてのお取引で/
ドンッとたまる
最大5,500ポイント
＼普段のお取引で/
コツコツたまる



手数料がおトク



ポイントを使う



さらに 家族サービス「ふぁみりそな」に登録で **ふぁみりそな**

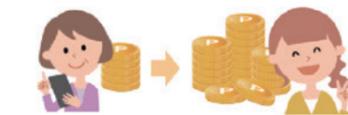
家族みんな
普段のお取引での
ポイント還元率
10%UP!



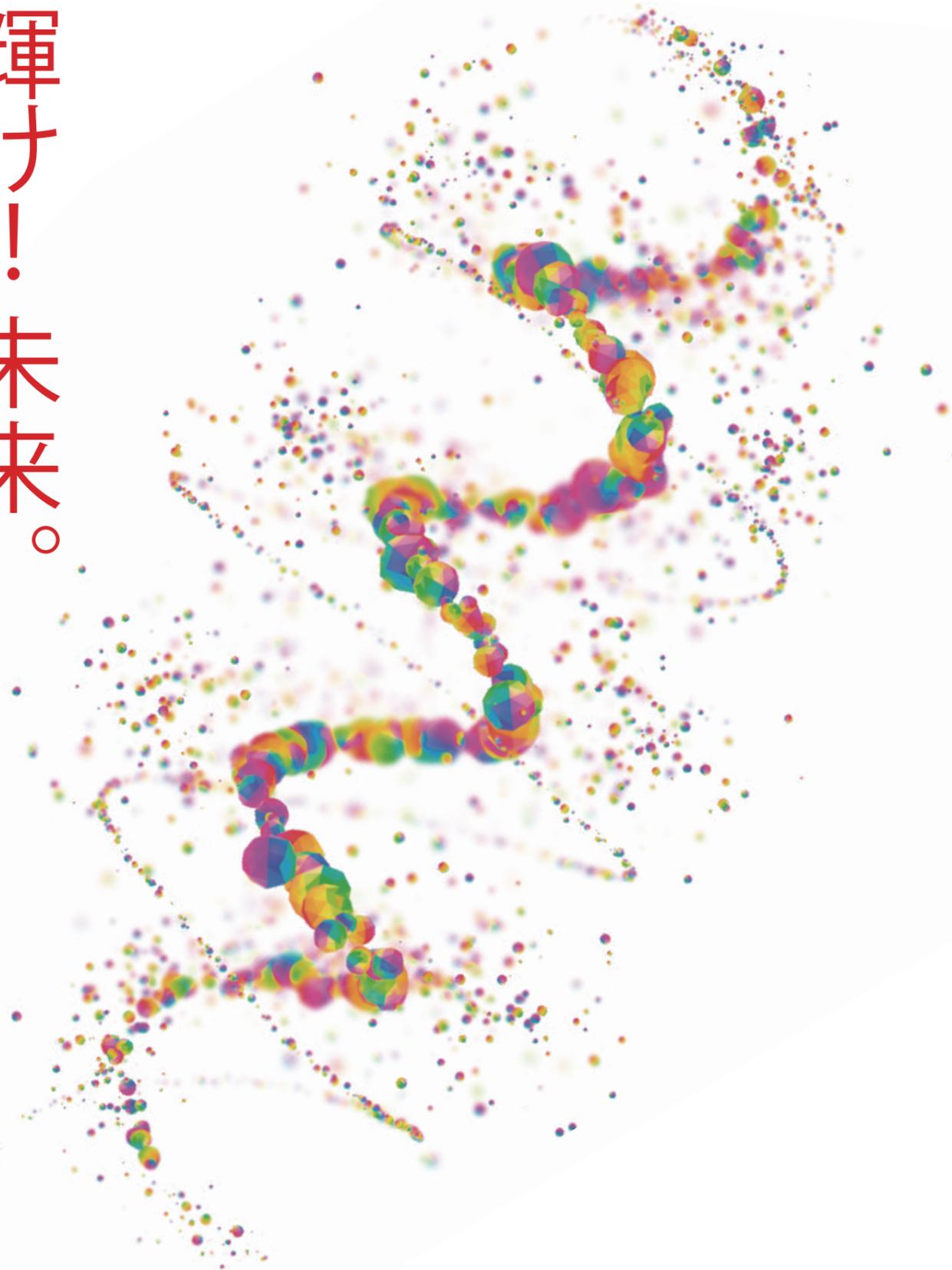
家族みんな
手数料がおトクに!



家族へ
ポイントプレゼント



輝け！未来。



一般財団法人
三菱みらい育成財団

www.mmfe.or.jp



タイヤ&ホイールの専門店

CAR PORT MALUZEN

カーポートマルゼン

私たちは、カーライフを通じて、
お客様の人生に喜びを提供することを約束します。



はがきに人生を想う。

安全性・耐久性・走行性・・・あらゆる性能を左右するタイヤ。
タイヤ1本が地面に接する面積は、はがき一枚分。そのわずかな接地面に乗せるのは、
尊い命です。我々の仕事は、タイヤとホイールを売る事ではありません。
人の安全を守り抜き、生き方をデザインする事です。
タイヤとホイールの先には、クルマに乗る人や家族がいます。
その人生に繋がる仕事を手がけています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



弊社では社会課題を解決し、
持続可能な社会の実現に向けた
活動を積極的に展開しています。

大阪本店 〒590-0003 大阪府堺市堺区高須町2-2-10 ☎ 0120-959-232
埼玉本店 〒362-0032 埼玉県上尾市日の出1-13-11 ☎ 0120-921-525

西宮店 〒663-8017 兵庫県西宮市大島町5-6 ☎ 0120-925-717
枚方店 〒573-0005 大阪府枚方市池之宮1-24-40 ☎ 0120-994-373
東大阪店 〒578-0966 大阪府東大阪市三島3-1-5 ☎ 0120-911-787

お得な情報満載！
弊社ホームページを
是非ご覧ください！



教育の未来を変えていく。
ワオ・コーポレーションは、

1976.....
 大阪で設立し全国18府県に展開
能開センター

全国47都道府県に展開
 アクセス
個別指導

ダウンロード累計
 1,500万超！
ワオっち!
 シリーズ
 2000.....
 アニメ製作開始、
 知育アプリ「ワオっち！」の提供
教育
 ×
エンターテインメント



ワオグループ会長
西澤昭男
 アニメーション
 作品第4作
 2011年3月11日
 あの目を忘れない。
 ごん太...
 勇気をありがとう。

とんがり頭のごん太
 -2つの名前を生きた福島被災犬の物語-



2021.....
 哲学を学ぶオンラインハイスクール
 学校法人ワオ未来学園
ワオ高等学校

2023.1.25まで
U-NEXT
 限定配信中!

2023.....
 小中高生のためのオンライン塾
ワオ未来塾

2025.....
大阪・関西万博
 学生の力で万博を盛り上げ、
 成功を目指す
WAKAZO を応援

WAOにできること

◎当社会員5万人と全県の大学生に、WAKAZOの万博情報を広めていきます。◎YouTubeチャンネル(登録者275万人・200超の国と地域)を活用し、大阪・関西万博の魅力を発信していきます。



ごうかくん

[大阪本社] 大阪市北区中崎西1-5-14 WAOビル TEL:06-6377-7971
 [東京本社] 千代田区麹町4-4-7 アトム麹町タワー 7F TEL:03-5215-2141



淡路島西海岸
 に
遊びに行こう!



PASONA

くわしくは「淡路島西海岸」特設ページへ!

© 2022 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L630787

<https://awaji-resort.com/asobo/>

アクセスはこちらから



LINK-Jはライフサイエンス分野に従事する方のための
 人と情報の交流プラットフォーム



LINK-J (一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン) は、再生医療・個別化医療・創薬・医療機器・ヘルスケアITをはじめ、予防・未病・健康長寿など広義のライフサイエンス研究・産業に関わる世界の人々の交流の場を創造し、人々の健康に貢献する製品やサービスを創出し続けるプラットフォームの構築を目的としています。

交流・連携

育成・支援



ネットワーキングによる交流



大規模シンポジウムの開催



事業化支援プログラム



ベンチャー企業支援

一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町三丁目3番9号日本橋アイティビル 2階
 TEL 03-3241-4911 FAX 03-3241-3757 (月~金 9:00-17:00) www.link-j.org

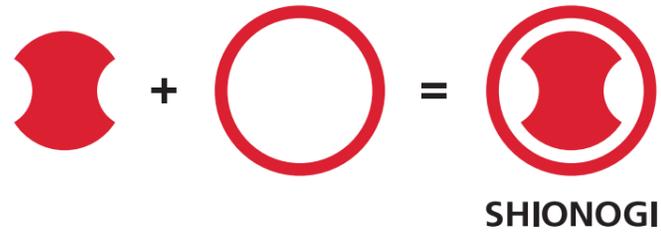


教育の未来を変える

WAO!

ワオ・コーポレーション

誇りと決意を、今、ひとつに。



SHIONOGIのシンボルマークは、「正確」「正直」「信頼」の象徴である分銅のモチーフと、未来へ向かってダイナミックに広がり続ける力強いリングが、ひとつになって、できています。

健康への願いに、変わらずまっすぐに寄り添い、最もよいヘルスケアソリューションを創り出し、世界中に届けたい。今、その決意を新たに。SHIONOGIです。

薬ができることの、その先へ。



2022.7

小児病棟

マタニティセンターでの手洗い教育

東アフリカ感染症会議

3 全てのAC 標準と同等を

6 安全な水と電力 全世界に

8 最も良い 結果を

手の消毒100% 検索

tearai.jp/hospital

病院で手の消毒100% プロジェクト

東アフリカでの院内感染をなくすために。SARAYAは、アルコール手指消毒剤の普及を進めています。まず、ウガンダから。

エボラ出血熱・新型コロナウイルス感染症などの対策を要する現場でも現地生産のアルコール手指消毒剤「AlsoftV」は活用されています。

出産時、産後の手指消毒の徹底。開発途上国では十分な設備がないまま出産するケースが多くみられ、新生児死亡率や乳児死亡率が高い国がたくさんあります。そのためSARAYAでは出産時、産後の手指消毒の徹底を推進しています。

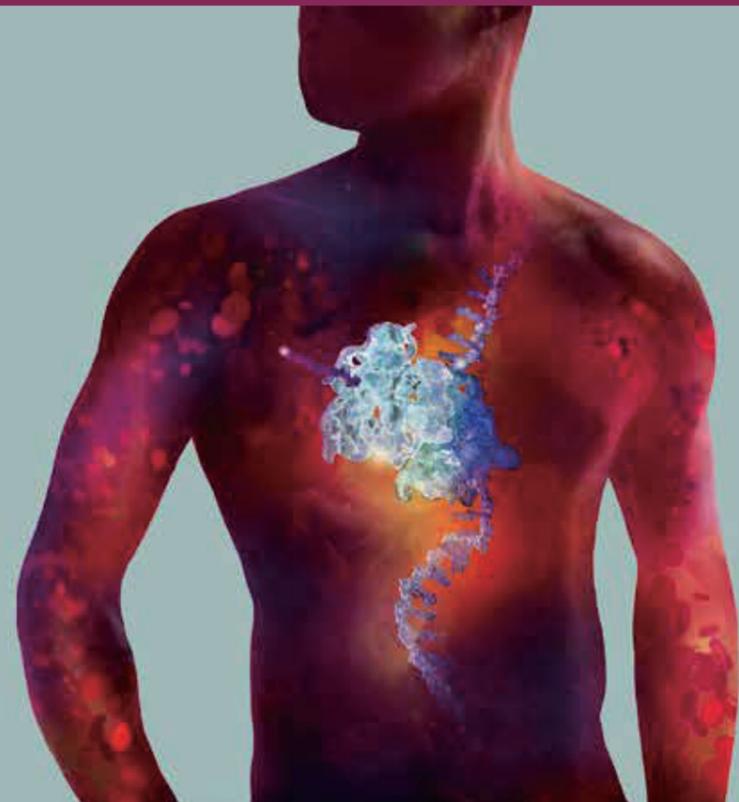
SARAYA サラヤ株式会社

大阪市東住吉区湯里 2-2-8 ☎0120-40-3636 <https://www.saraya.com/>

What science can do

心臓の再生

アストラゼネカは、幹細胞活性化に関わる様々なシグナル伝達タンパクが持つ役割を研究することによって、心筋組織の自己修復を可能にすることに取り組んでいます。



Instagram

Nhes.
naturen hittar ett sätt

端材活用 と 副産物活用
eco 歯ブラシ【日本製】
天然毛 と 天然木を採用

「自然に還る」天然素材の歯ブラシ
mail : plus@nhes.jp

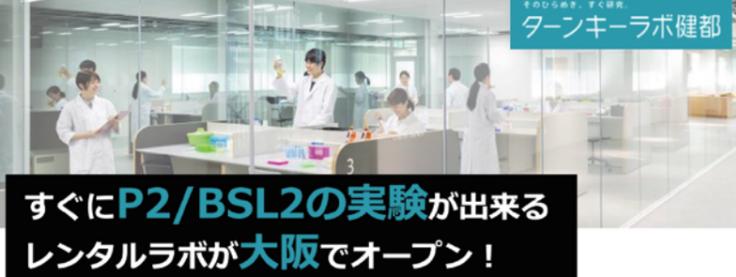
BASE shop

自然に還る歯ブラシ
turalist
100% プラスチックフリー

ななめカット
小さなヘッド

Nhes.

日本製



ターナーラボ健都

すぐにP2/BSL2の実験が出来る
レンタルラボが大阪でオープン！

機器付レンタルラボ「ターナーラボ健都」とは
基本的な設備や実験機器が整えられており、
ラボマネジャーが常駐するP2/BSL2対応のレンタルラボが
大阪・健都に2022年オープンしました。

研究者・起業家のラボに関するこんなお悩み解決！
「研究環境を整える初期投資が高額だ」
「事業の方向性が定まるまでは身軽でいたい」
「研究者の人材確保に苦戦中」

研究を加速させる3つの特長



詳細情報はWebサイトをご覧ください →
設備機器や価格例等をご覧いただけます



お問合せ先：京都リサーチパーク株式会社 新事業開発部 tk1@ml.krp.co.jp



HVC KYOTO

唯一無二の全編英語で行う 公開メンタリング付ファイナリストピッチ
国内外の研究者・スタートアップによる 新規案件20件超
オープンバージョンを推進する スタートアップとパートナーとの個別面談71件



HVC KYOTOは、日本最大級のヘルスケア分野特化型の英語ピッチイベントを中心とした
スタートアップの成長支援プログラムです。京都から世界に羽ばたいて頂くこと、JETRO・
京都府・京都市・京都大学などと共に実施しています。

2016年の初年から、延べ140社のスタートアップが参加、ピッチ登壇後の資金調達総額は
250億円を超えています。【公式サイト：<https://www.krp.co.jp/hvckyoto/>】

次回要項は来年2月頃公開します。ご応募、ご支援お待ちしております。
以下、ポストイベントのご案内です。ぜひご参加ください。

10月18日(火) ポストイベント1

「Alumni Showcase -再生医療編-」
・ライフサイエンスクラスターMilano Innovation District(MIND)の紹介
・HVC KYOTO過去登壇者による最新事業動向の発表

Peatixから
お申込みください



12月14日(水) ポストイベント2

「ウェルネスシンポジウム
～細胞バイオテクノロジーの観点から再生医療関連ビジネスを再考してみるの面白い～」
・産官学のキープレイヤーと旬なスタートアップが一堂に会する圧巻のパネルディスカッション
・座長：田畑 泰彦 先生/京都大学 医学部 医学研究所 教授

資料請求・お問合せは、HVC KYOTO事務局まで
hvckyoto@krp.co.jp

【主催】 JETRO Japan External Trade Organization 京都市 京都大学 KRP

miyako
起業部
@KRP

2019年8月、京都リサーチパーク株式会社(略称:KRP)は
「本気で起業をしたい」人のために「miyako起業部@KRP」を設立しまし
た。miyako起業部@KRPはその名の通り、「起業」をするための部活動
です。

部員は、互いにチームビルディング、ビジネスプラン作成をし、
国内外のコンテストに応募をしながら、ビジネスプランをブラッシュアッ
プし、起業に向けて実践的な活動を行います。

顧問には「起業」をするための部活動の生みの親、熊野正樹教授(神戸
大学)を迎え、当部活動の指導にあたっていただくほか、国内外の起業家
や大学機関等、KRPのネットワークを活用して、部活動を実施します。

「千年の都」ここ京都で、ともに新たな価値を創造していきたい
意欲と行動力に富む部員を募集しています。



お申込み・詳細情報は、こちらから→

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、
持続可能な社会の実現に取り組みます

SDGsで
未来を照らす

社会課題の解決に向けたSDGs取組

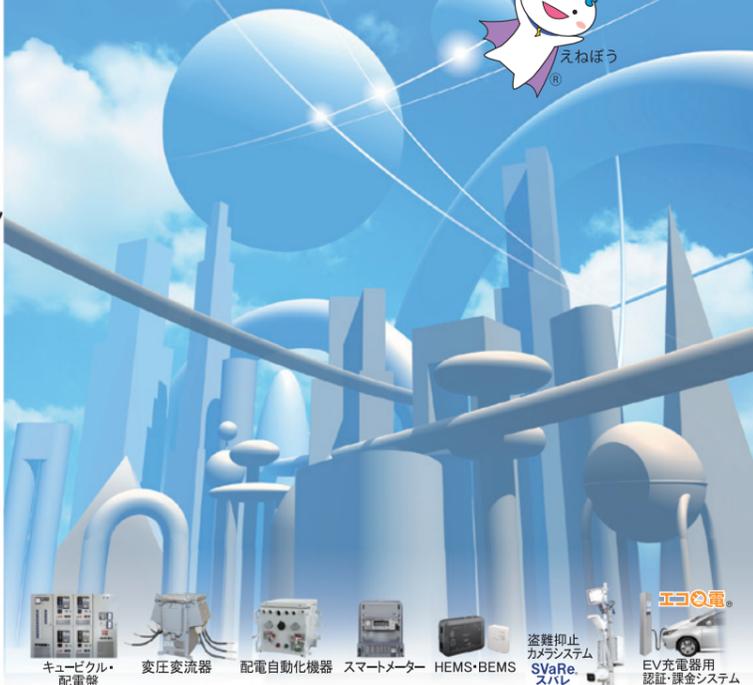


立ちどまらない保障。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会をめざします。
※外部環境にシナジーに対応する、持続可能な社会

人とエネルギーの未来のために

エネゲートは、DX 関連技術の開発を加速させ、
人と社会の未来に役立つ製品・サービスを提供致します



関西電力グループ power with heart
ENEGATE



“健康寿命の延びる沿線”
の実現に向けて

阪急阪神ホールディングスは
健康や介護に関するサービス提供や情報発信を通じて
沿線にお住まいの皆様の健康ライフをサポートします。



Wellness PLUS
健康づくり応援サイト

生き活きと輝く
自分と家族のために
手軽でWellnessな
情報を

【阪急阪神Wellness PLUS】
healthcare.hankyu-hanshin.co.jp/



介護 × 社会
予防 × 参加
自治体等の健康福祉・介護等領域
の課題へアプローチ

在宅ケアの
現場をつなぐ
地域包括ケア
支援サービス

【阪急阪神みなとわ】
minatowa.hankyu-hanshin.co.jp/

阪急阪神ホールディングス株式会社



医療に進化を 患者さんにより良い人生を
医療の最前線で力を尽くす人々と、世界のパートナーとともに
テルモは100年の品質と技術を基盤に、患者さんのかけがえのない人生を支えていく。

さあ、ともに医療の未来へ

TERUMO

テルモ株式会社
www.terumo.co.jp



Coca-Cola
Real Magic



リサイクルしてね
いももがやぶる。またおしよ

私たちにとって、地域社会は
かけがえのないパートナーです。

Coca-Cola コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
BOTTTLERS JAPAN INC. <コカ・コーラ指定会社>

Coca-Colaとコカ・コーラは、Coca-Cola Companyの登録商標です。 <https://www.ccbji.co.jp>

英進館は、学習指導を通して
お子様の将来の可能性を広げます。



なりたい自分になるために

美しいプロポーションは
バランスが大切です。



バストのトップは、
肩とひじの2分の1
(真ん中)

ウエストは、
軽くひじを
曲げたところ

ヒップのトップは、
身長2分の1

※当社基準

プロポーションづくりのダイアナ

Diana
Solution for Life



詳細はこちら

あなたのご支援で inochi 輝く未来社会の 実現へ

一般社団法人 inochi 未来プロジェクトは、「みんなで inochi の大切さと未来について考え、行動するプロジェクト」。
「inochi のひとつり・ものつくり・まちつくり」の3つを提唱し、2025年大阪関西万博を通して世界へと発信することで、50年、100年後の未来社会がより良いものとなるよう活動しています。
私達の活動は、皆様からの暖かいご支援により支えられ、ここまで大きく成長して参りました。
今後とも活動を加速させていくため、皆様からのご支援を賜り、共に未来社会を形作っていきたくと考えております。

inochi WAKAZO 会員になる

私達の活動を継続的に支援して下さる方への会員制度です。
※お支払いは各種クレジットカード対応。一年ごとの自動更新となります

学生 ￥3,000 / 年

社会人 ￥10,000 / 年

RETURN ささやかな御礼の表明

- プロジェクト優先観覧権利・限定イベントの案内などを毎年お送りいたします
- 私達の活動・取り組みについてのメールでお知らせいたします
- アニュアルレポートにお名前を記載いたします
- アニュアルレポート・御礼のお手紙を毎年送付いたします

単発サポーターになる

単発のご支援制度です。金額はご自由に選択頂けます。
各種クレジットカード・銀行振り込みに対応しています。

RETURN ささやかな御礼の表明

- 私達の活動・取り組みについてのメールでお知らせいたします
- アニュアルレポートにお名前を記載いたします
- アニュアルレポート・御礼のお手紙を送付いたします

inochi Gakusei Innovators' Program (i-GIP) 特別サポーターになる

毎年開催の i-GIP 参加者の関係者様限定の単発支援制度です。
支援額 ￥15,000 までのご用意です。

RETURN ささやかな御礼の表明

- i-GIP 特製のアルバムを送付いたします
- 私達の活動・取り組みをメールでお知らせいたします
- アニュアルレポートにお名前を記載いたします
- アニュアルレポート・御礼のお手紙を送付いたします



支援をお考えくださる方へ

左の QR コードより、「inochi WAKAZO 基金」ページにアクセスしてください。
ご希望の支援制度を選択し、決済に進んでください。記入情報に不足がある場合適切な御礼がお送りできない場合がございますので、注意事項をよく読んでご支援いただくよう、よろしくお願い致します。
個人情報は当団体プライバシーポリシーに則り適切に管理します。

お問い合わせ先

一般社団法人 inochi 未来プロジェクト



✉ info@inochi-wakazo.org

🌐 https://inochi-wakazo.org



澤 芳樹

大阪大学大学院医学系研究科 特任教授
大阪警察病院 院長

医療者・企業・行政そして市民と患者も。関西・日本が、みんなできさえいながら、健康で長生きできる街・国になることをめざす一般社団法人です。
理事長の澤 芳樹をはじめとする9人の理事で構成されています。
また、医大生を中心とする「inochi WAKAZO Project」とも連携し、多くの世代を巻き込んだ活動を行っています。

薬剤師がいる。
時代の変化に挑んでいる。

変わる世の中、変わる生活様式。調剤薬局は今、大きく変化しています。
お薬のある安心をこれからも届け続けるために。私たちは、これからも前に進み続けます。

薬局の未来をはじめよう。
アイングループ